

平成30年度（H.30.4.1.～H31.3.31） 医接連携室 診察依頼データ

公益社団法人 大阪府柔道整復師会
研究事業部

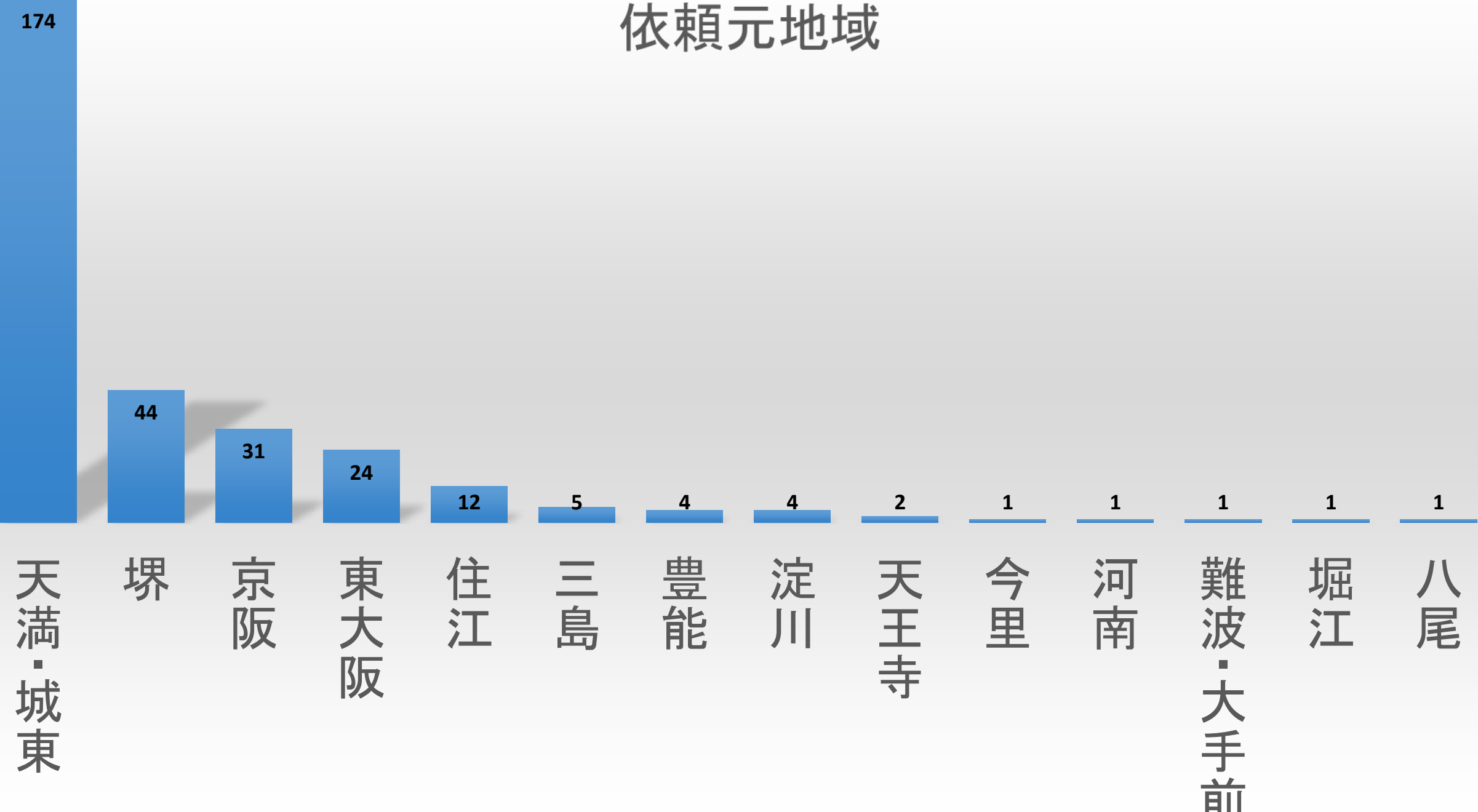
はじめに

当会では公益事業の一環として、一人ひとりにあった適切な医療を提供し、より府民の健康維持増進のために貢献することや、柔道整復師の発展のために、さまざまなデータの収集を目的として「医接連携室」を運営しています。

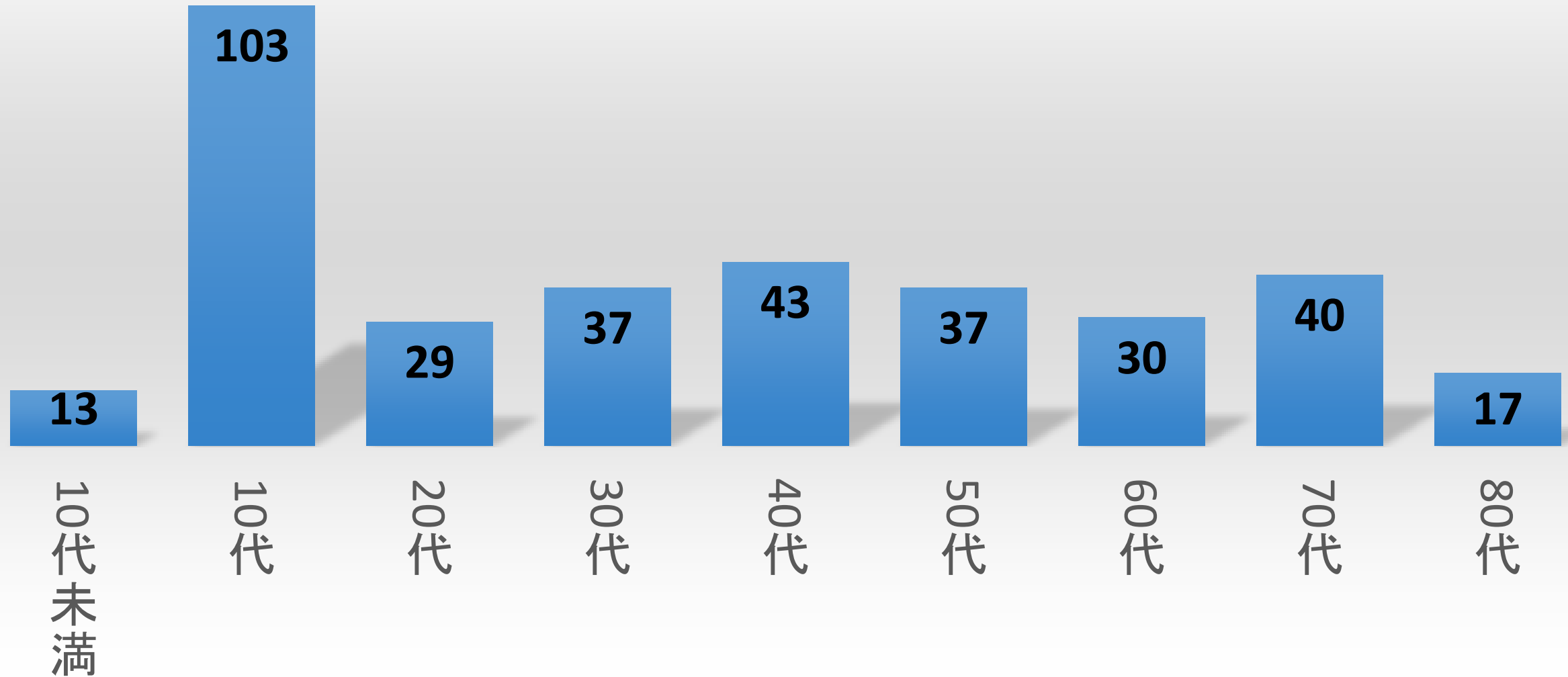
医接連携室では医師と柔道整復師が府民の健康のために、情報の共有や症状に応じて連携し対応にあたっています。

平成30年度の医接連携室診察依頼データのけがの状況やどのような傾向にあるかなどについて分析しました。

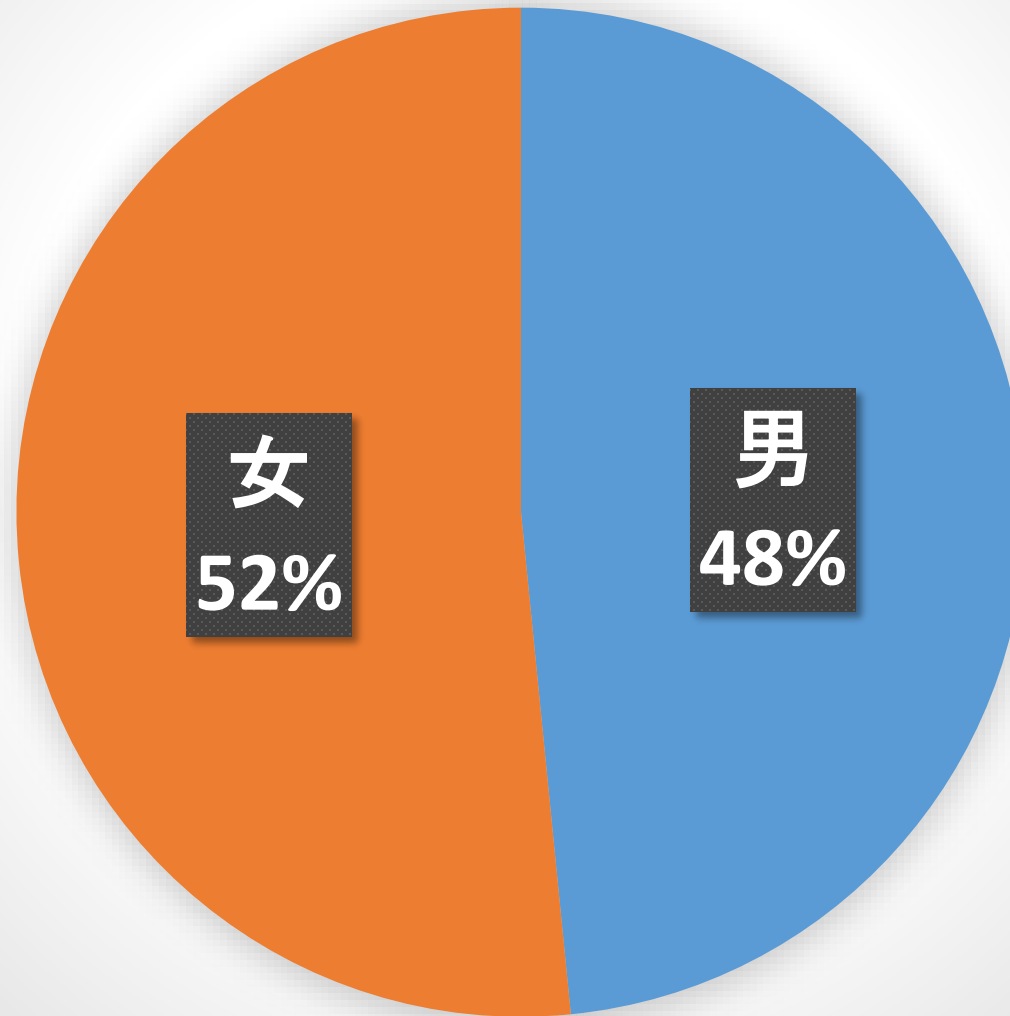
依頼元地域



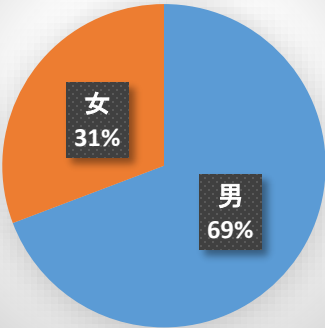
年齢別 診察依頼者数 (349名)



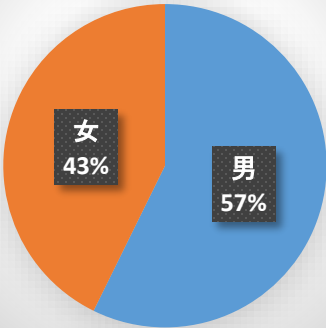
全体男女比



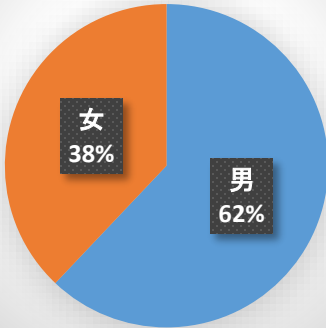
10代未満男女比



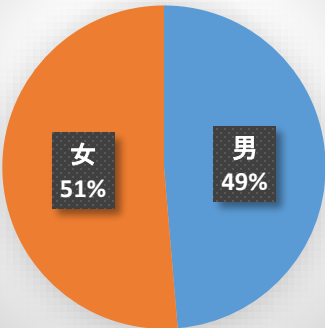
10代男女比



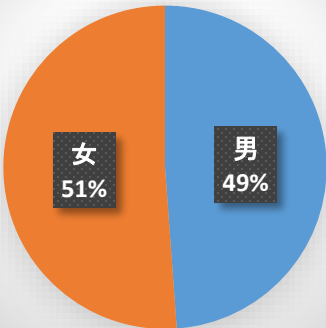
20代男女比



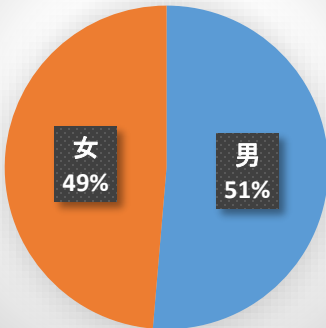
30代男女比



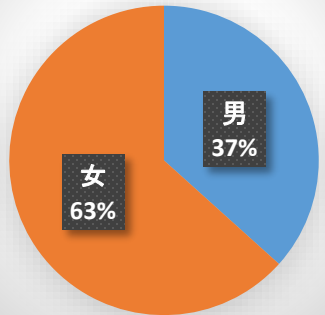
40代男女比



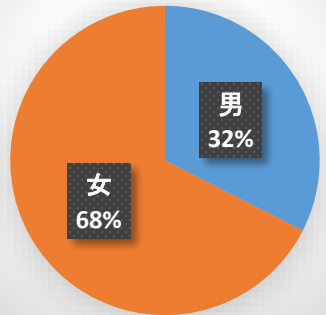
50代男女比



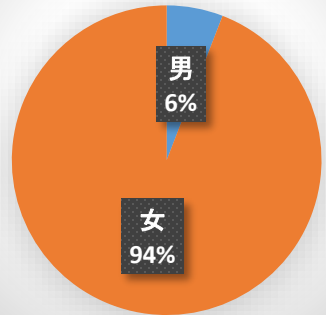
60代男女比



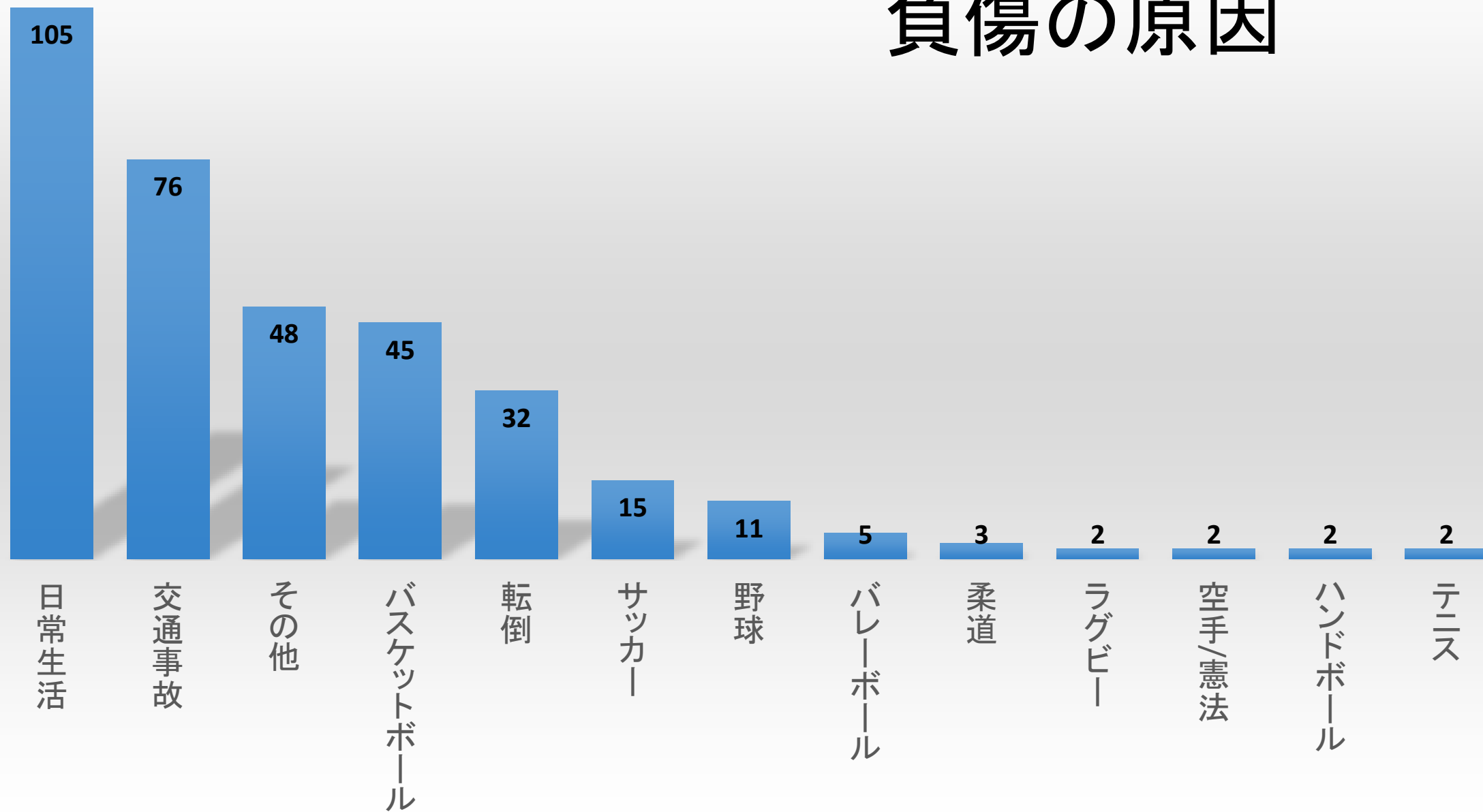
70代男女比



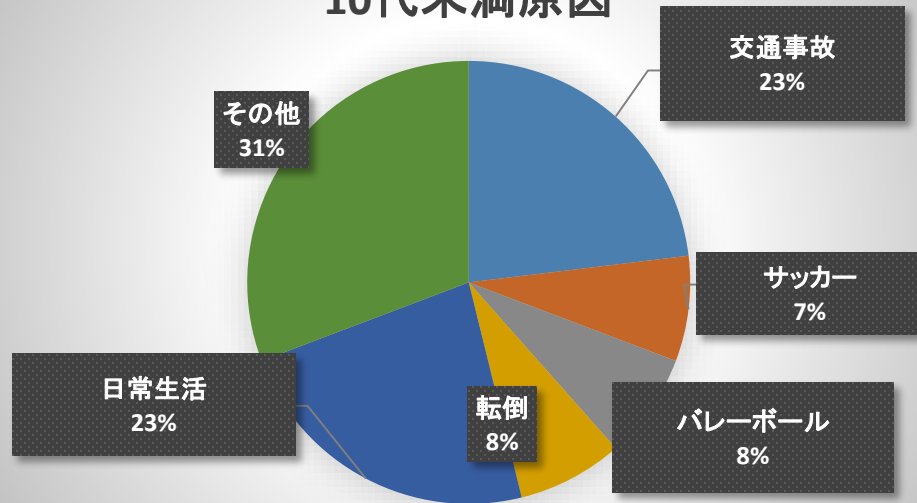
80代男女比



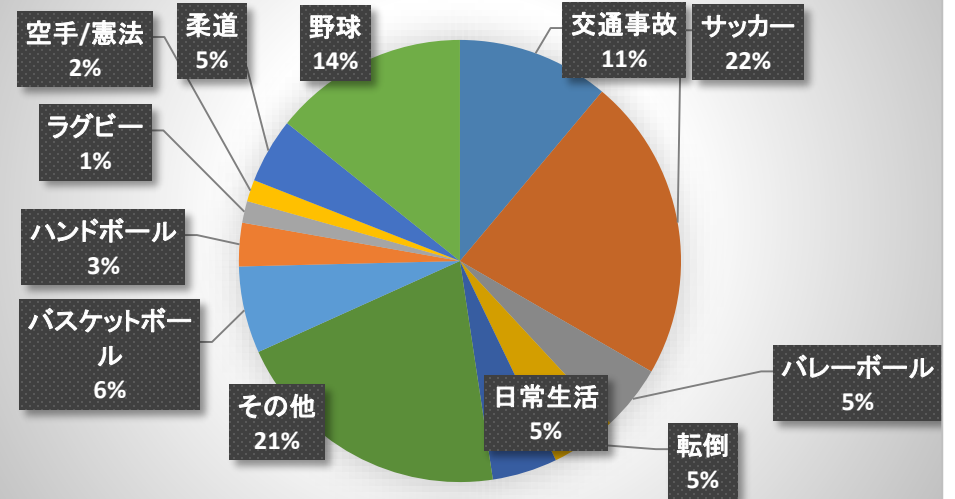
負傷の原因



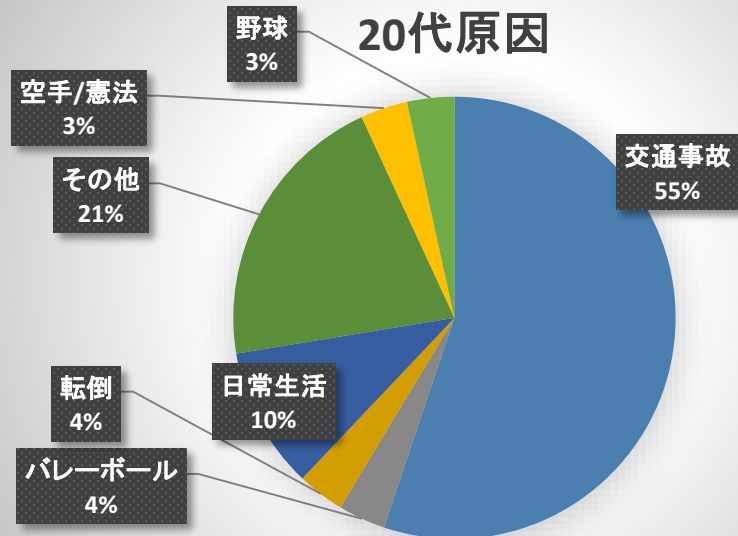
10代未満原因



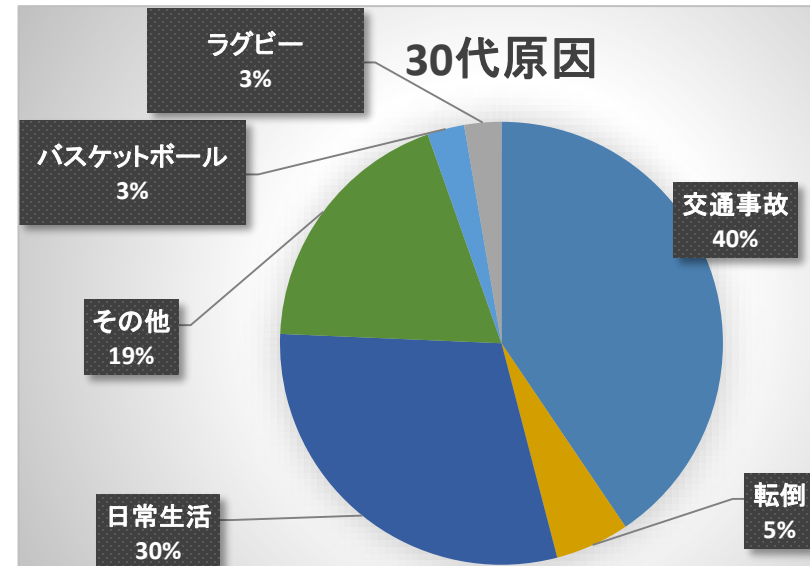
10代原因

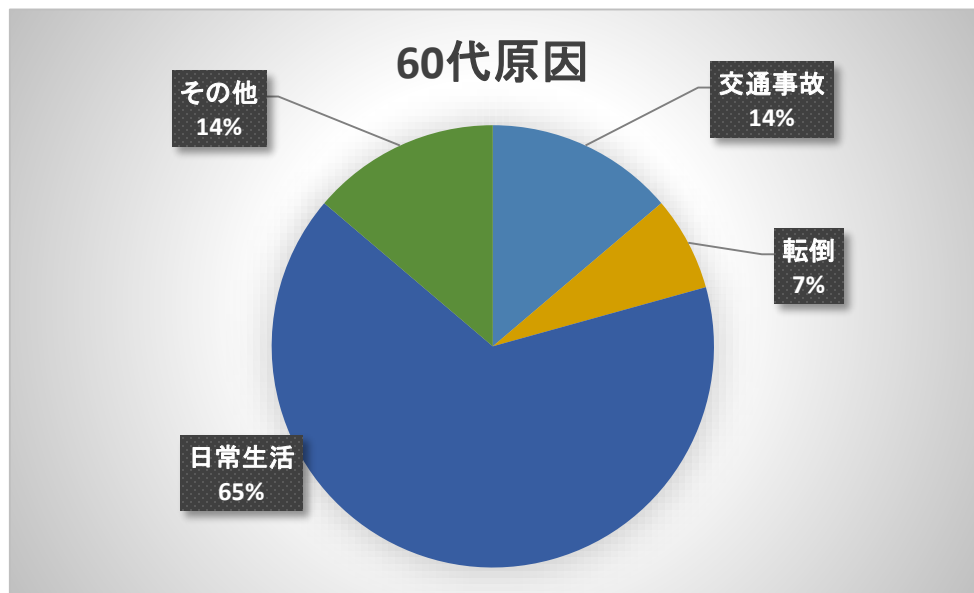
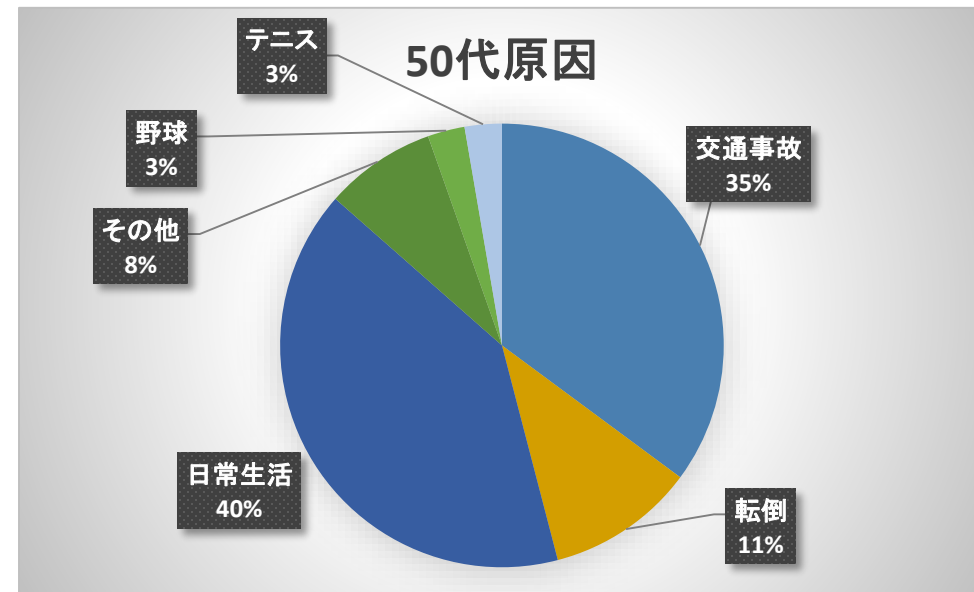
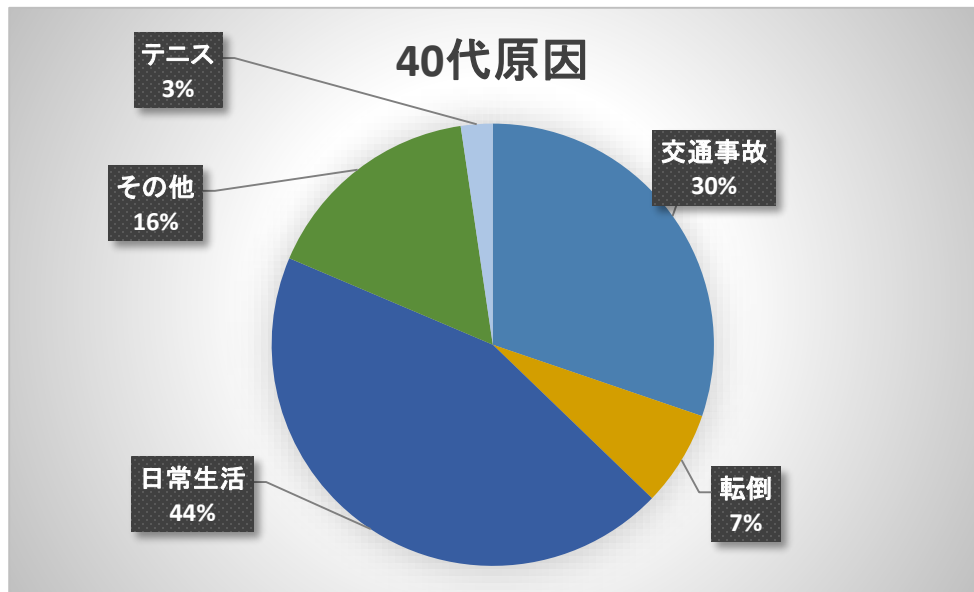


20代原因

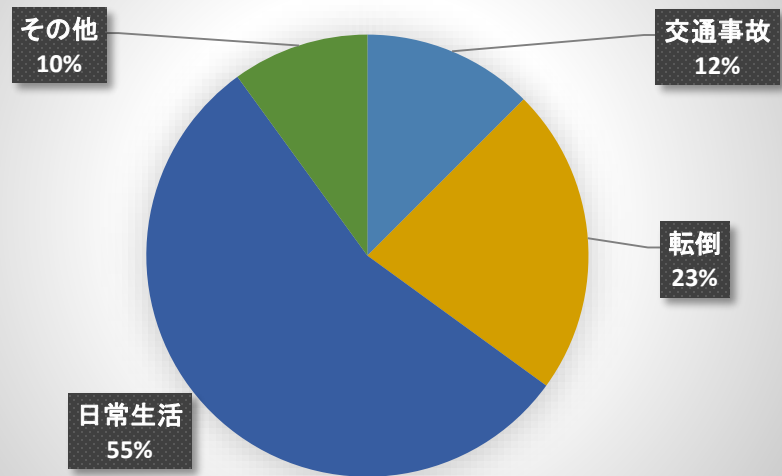


30代原因

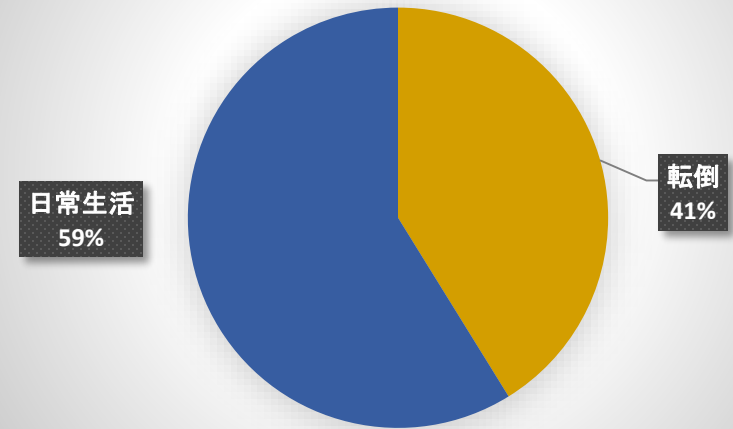




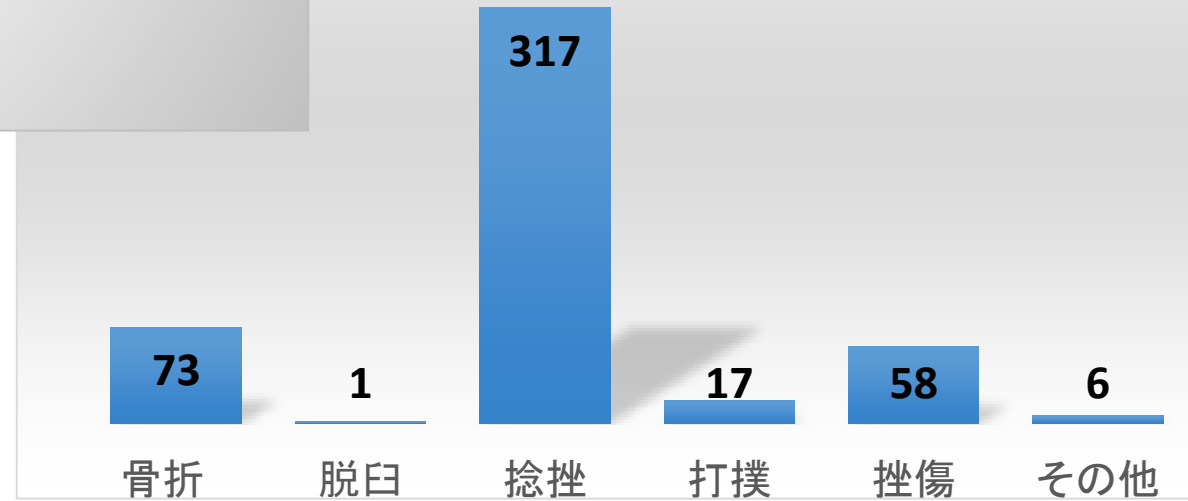
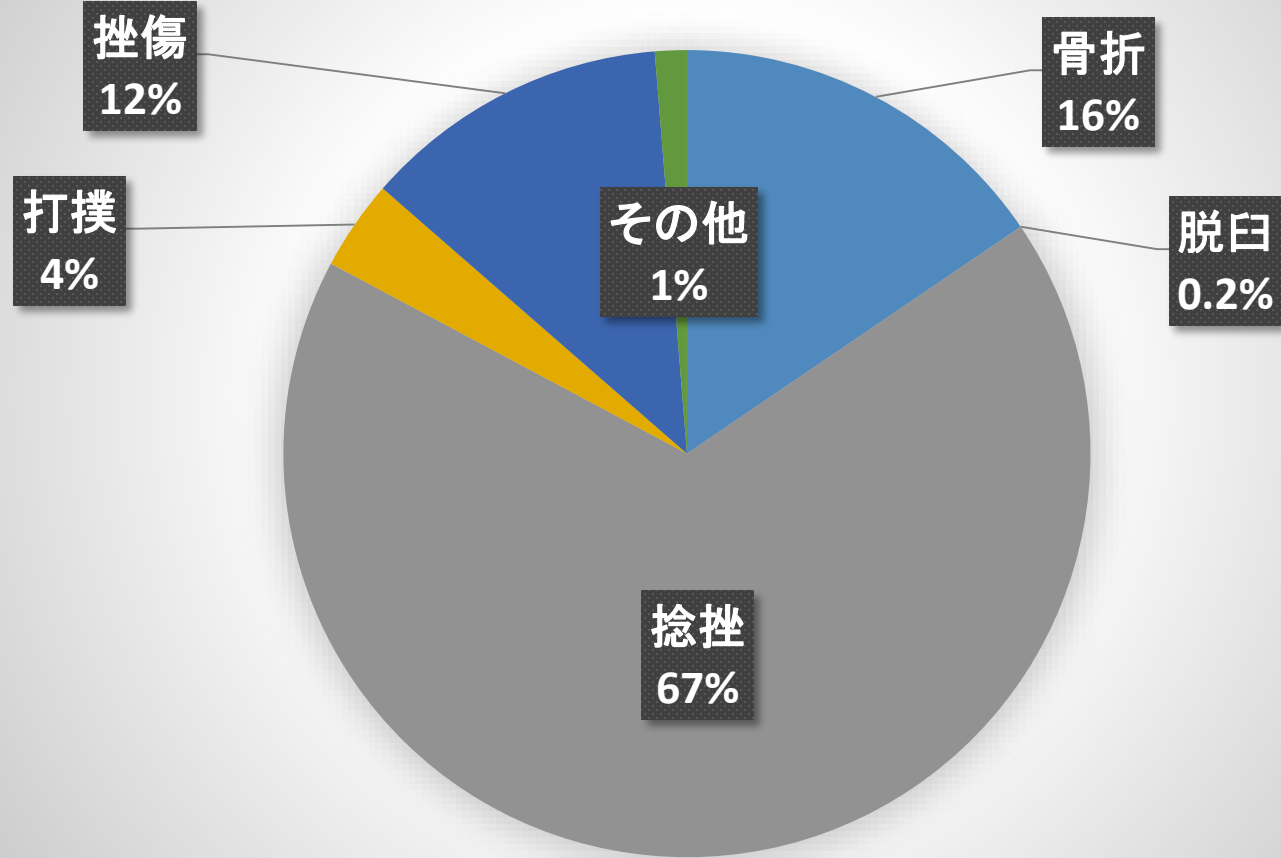
70代原因



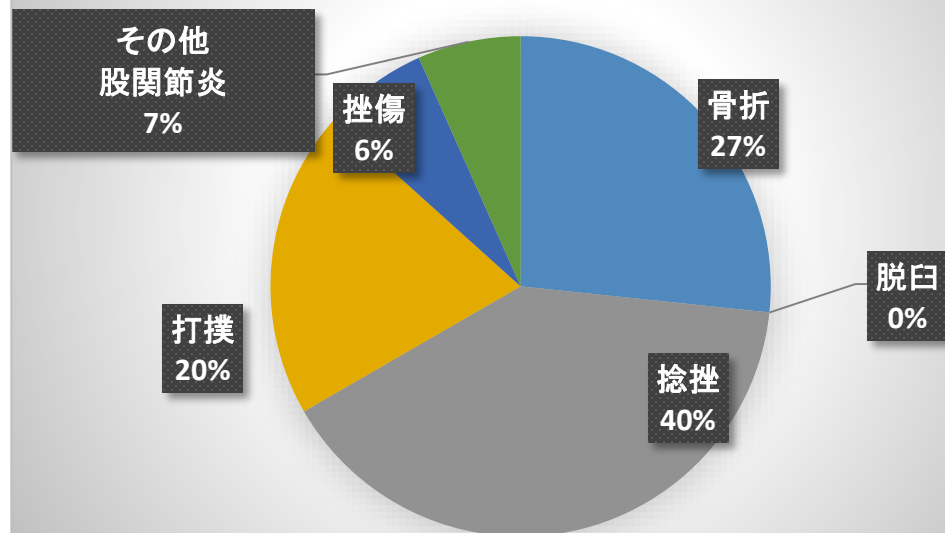
80代原因



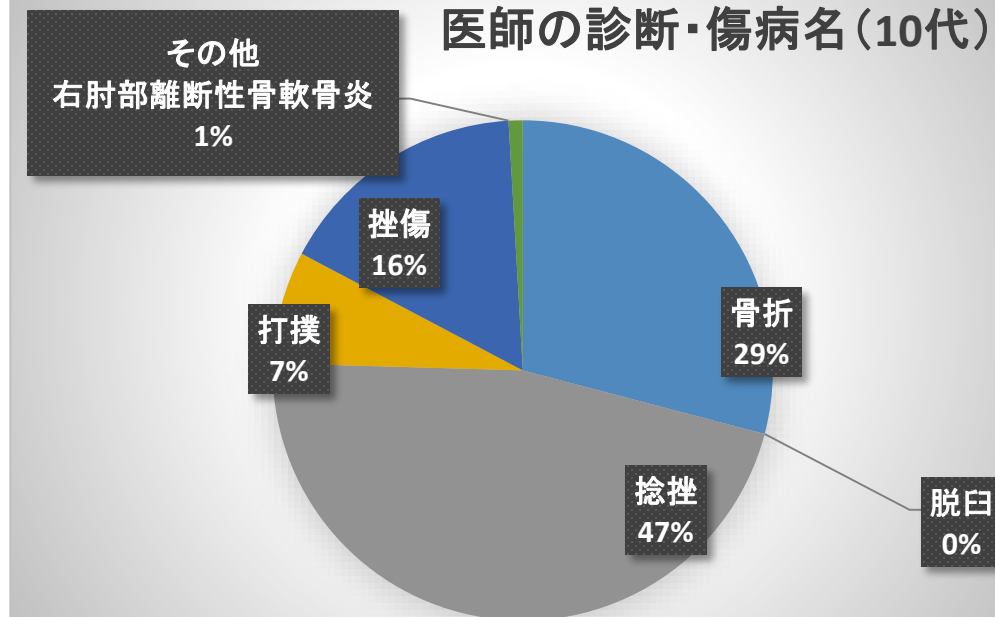
医師による診断・傷病名（全体472例）



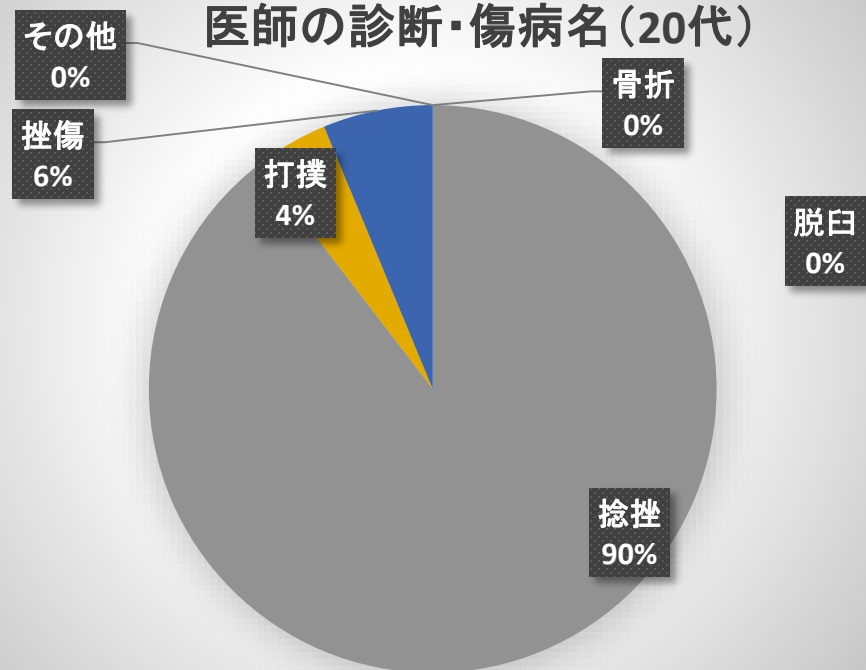
医師の診断・傷病名(10代未満)



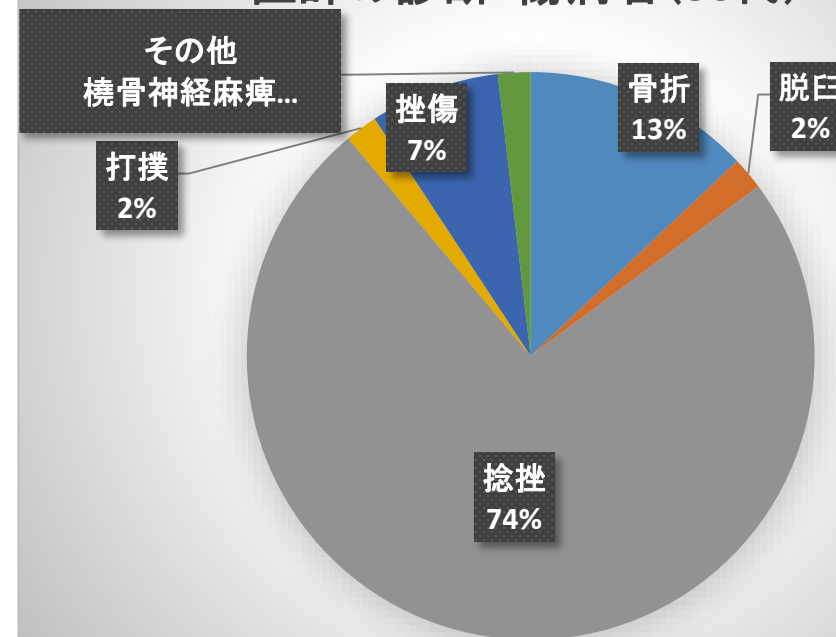
医師の診断・傷病名(10代)



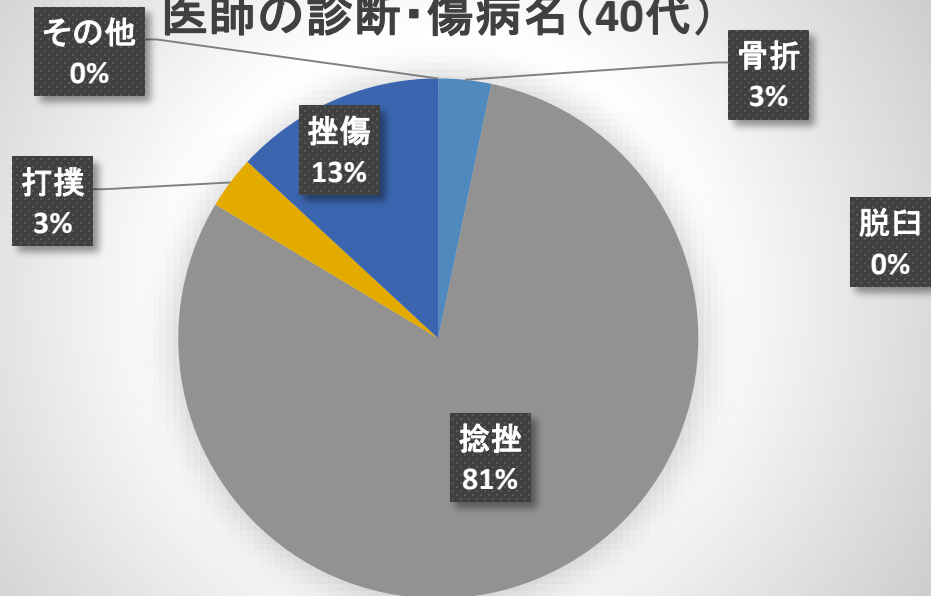
医師の診断・傷病名(20代)



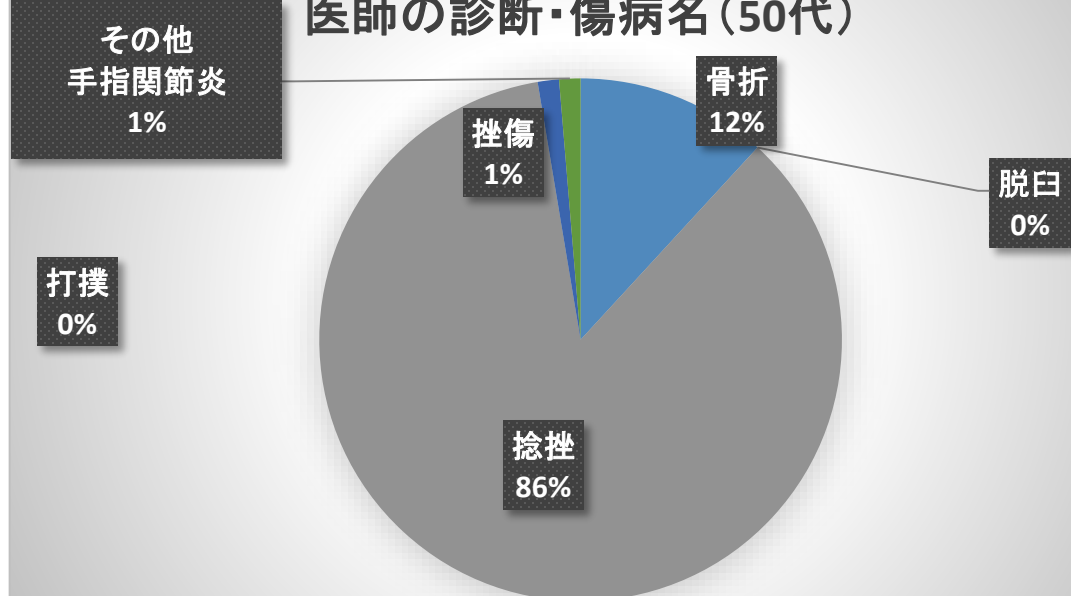
医師の診断・傷病名(30代)



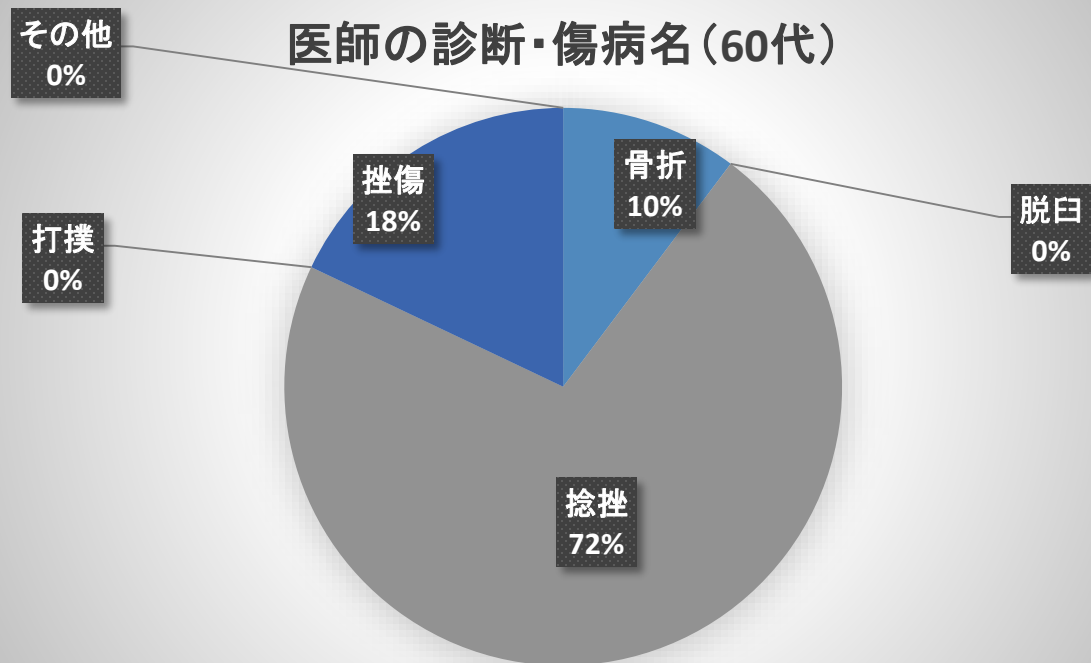
医師の診断・傷病名(40代)



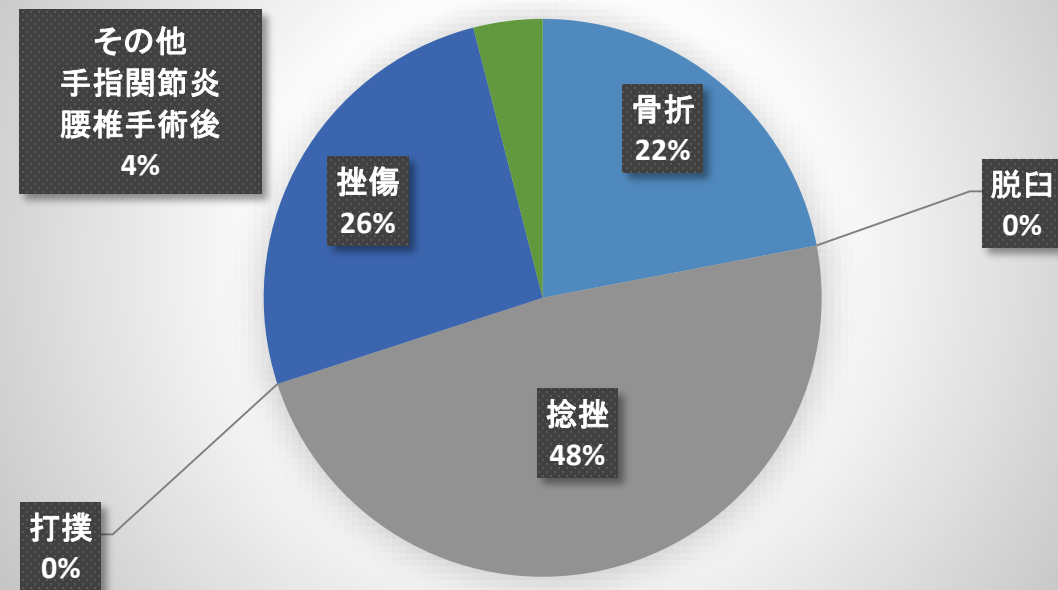
医師の診断・傷病名(50代)

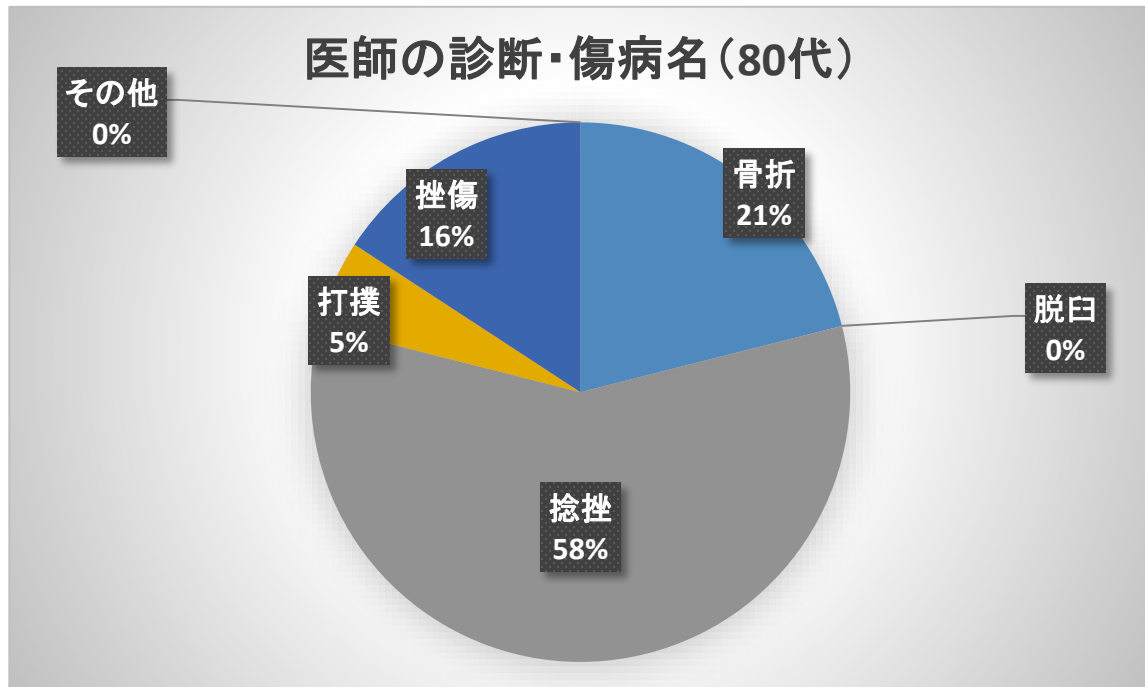
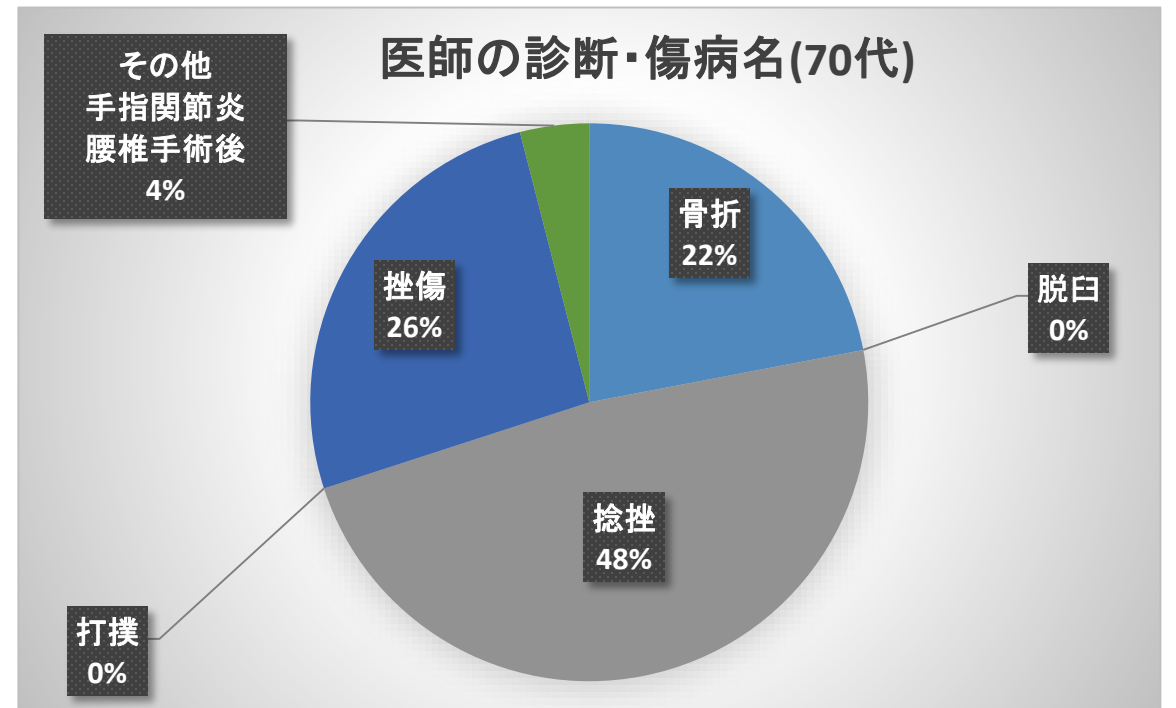
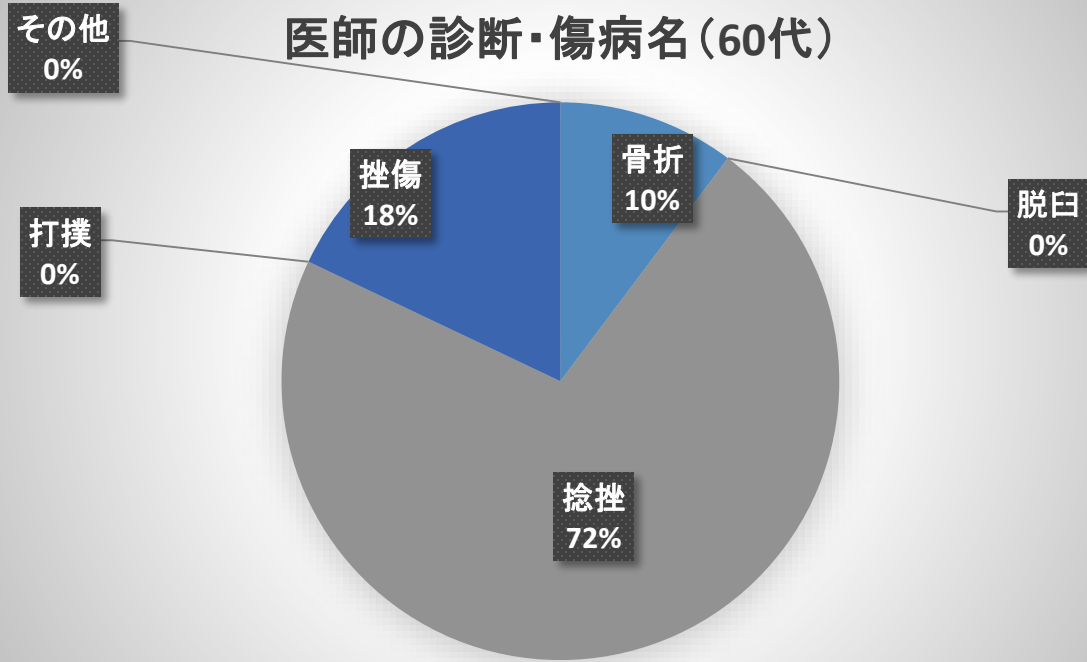


医師の診断・傷病名(60代)

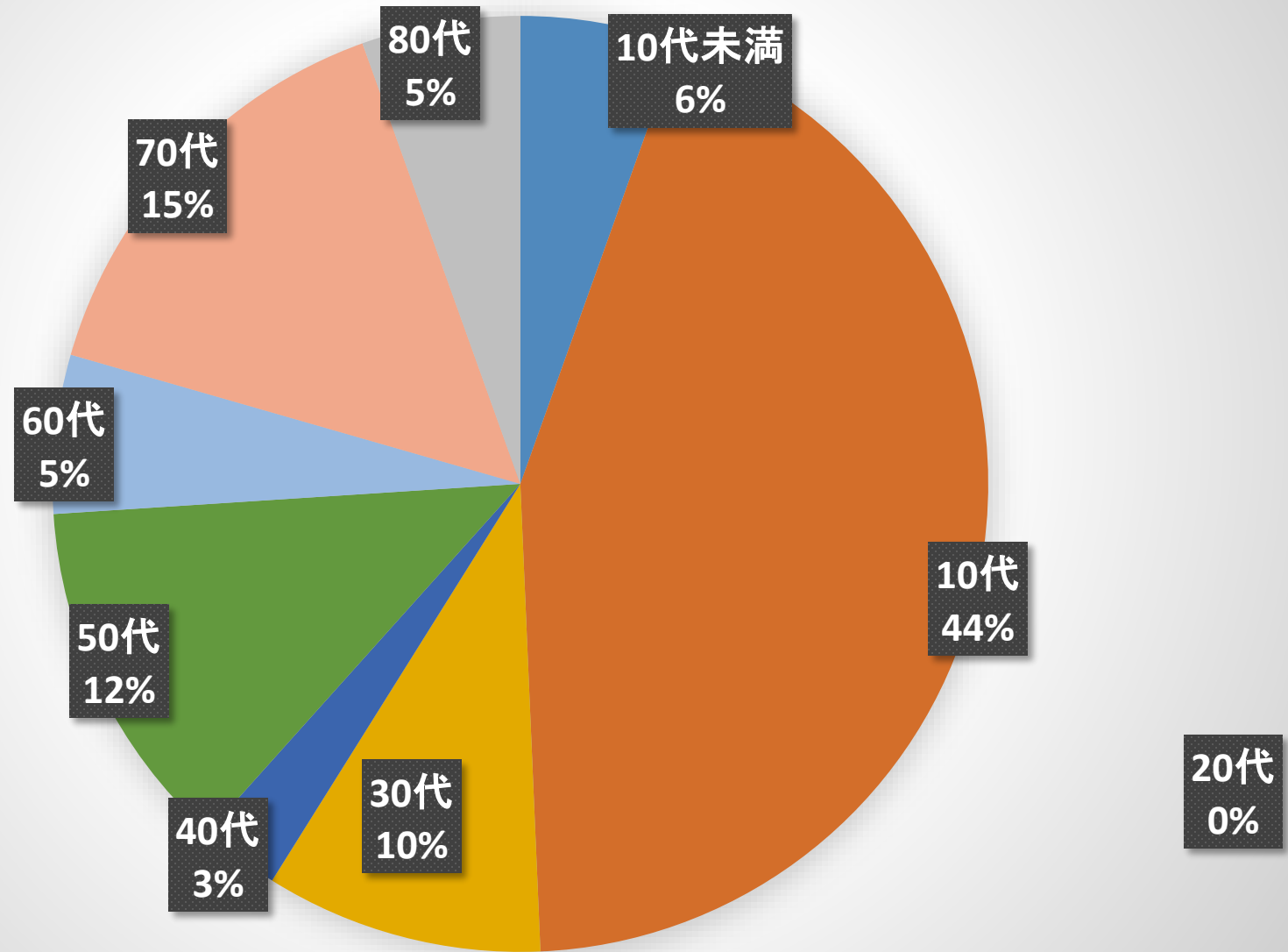


医師の診断・傷病名70代

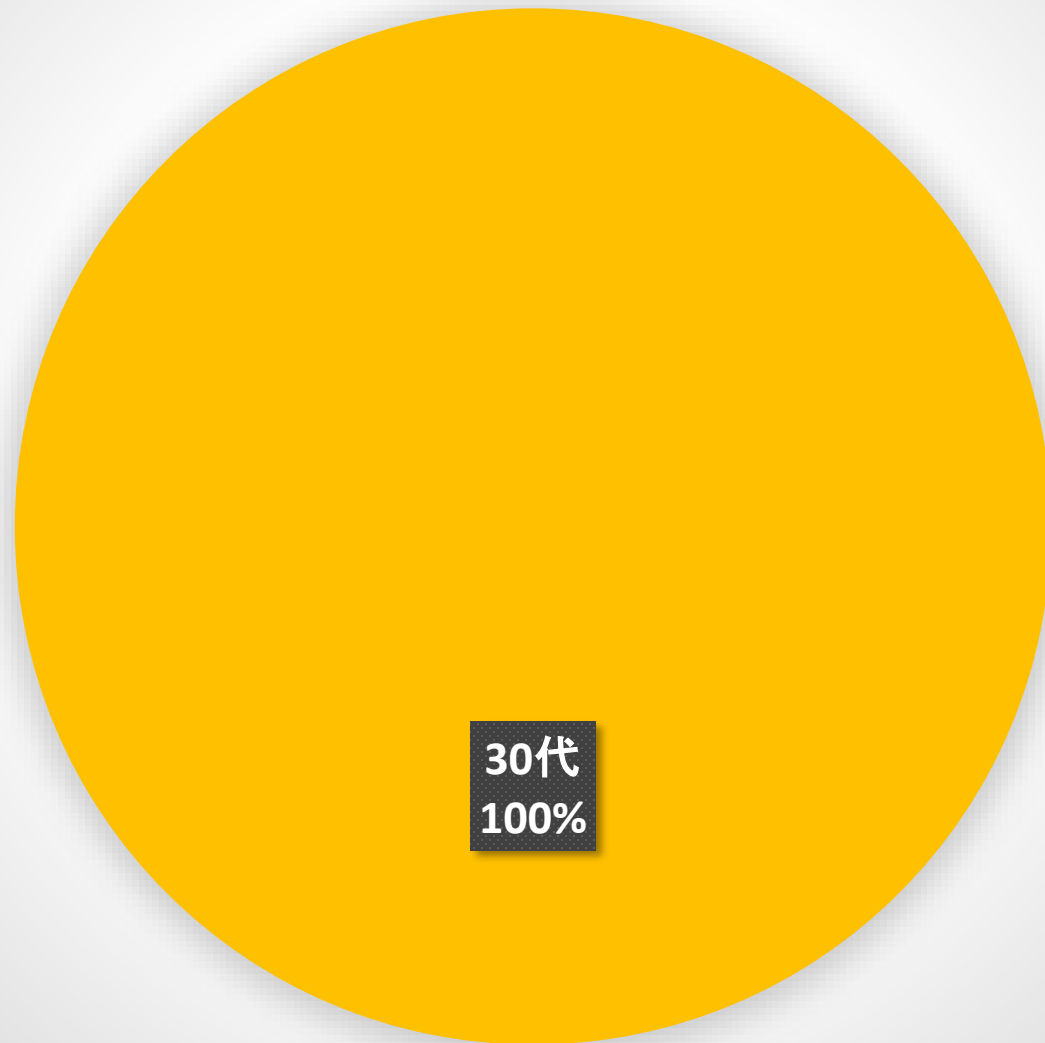




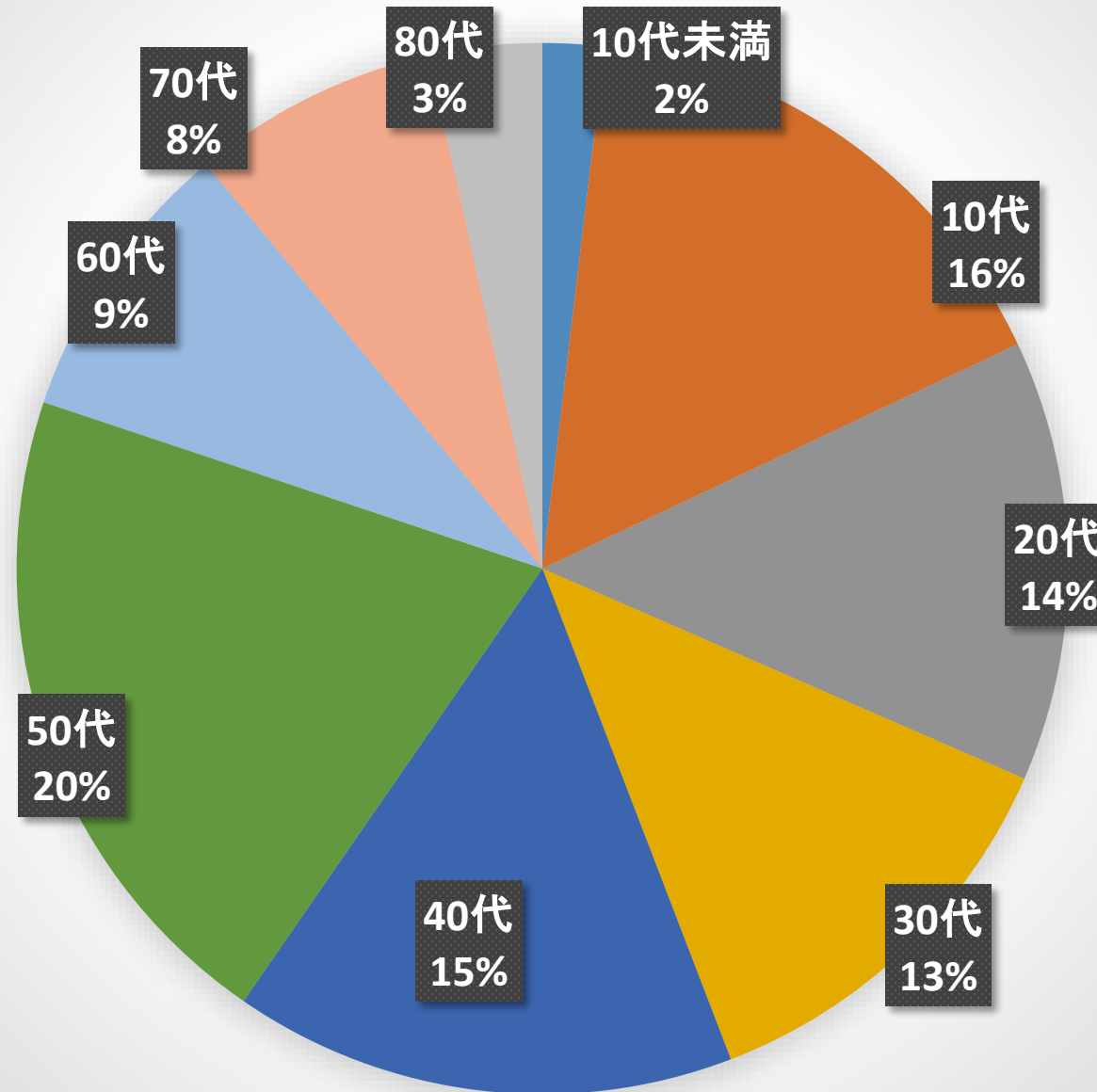
骨折の年齢別割合(73例)



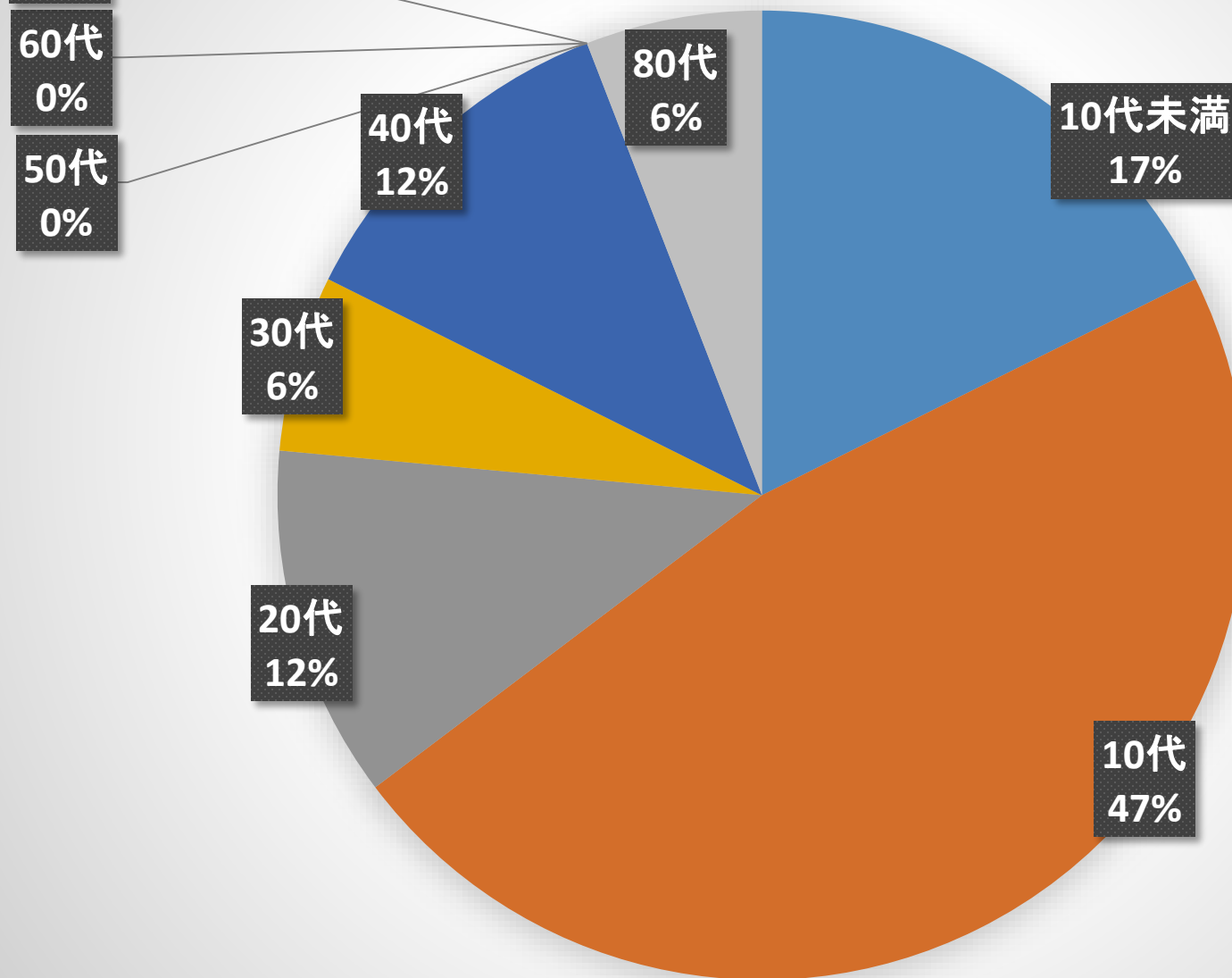
脱臼1例



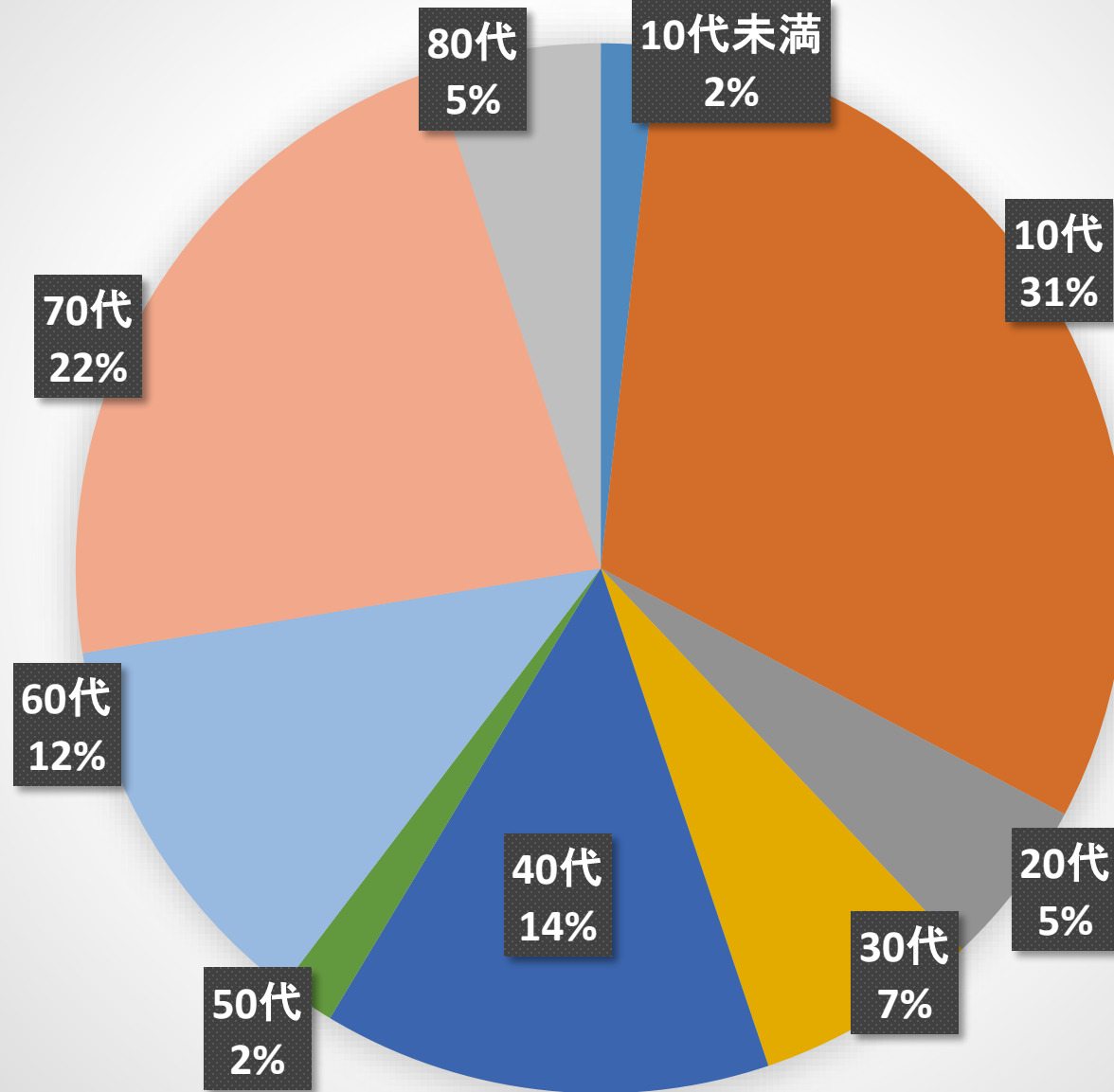
捻挫の年齢別割合 (317例)



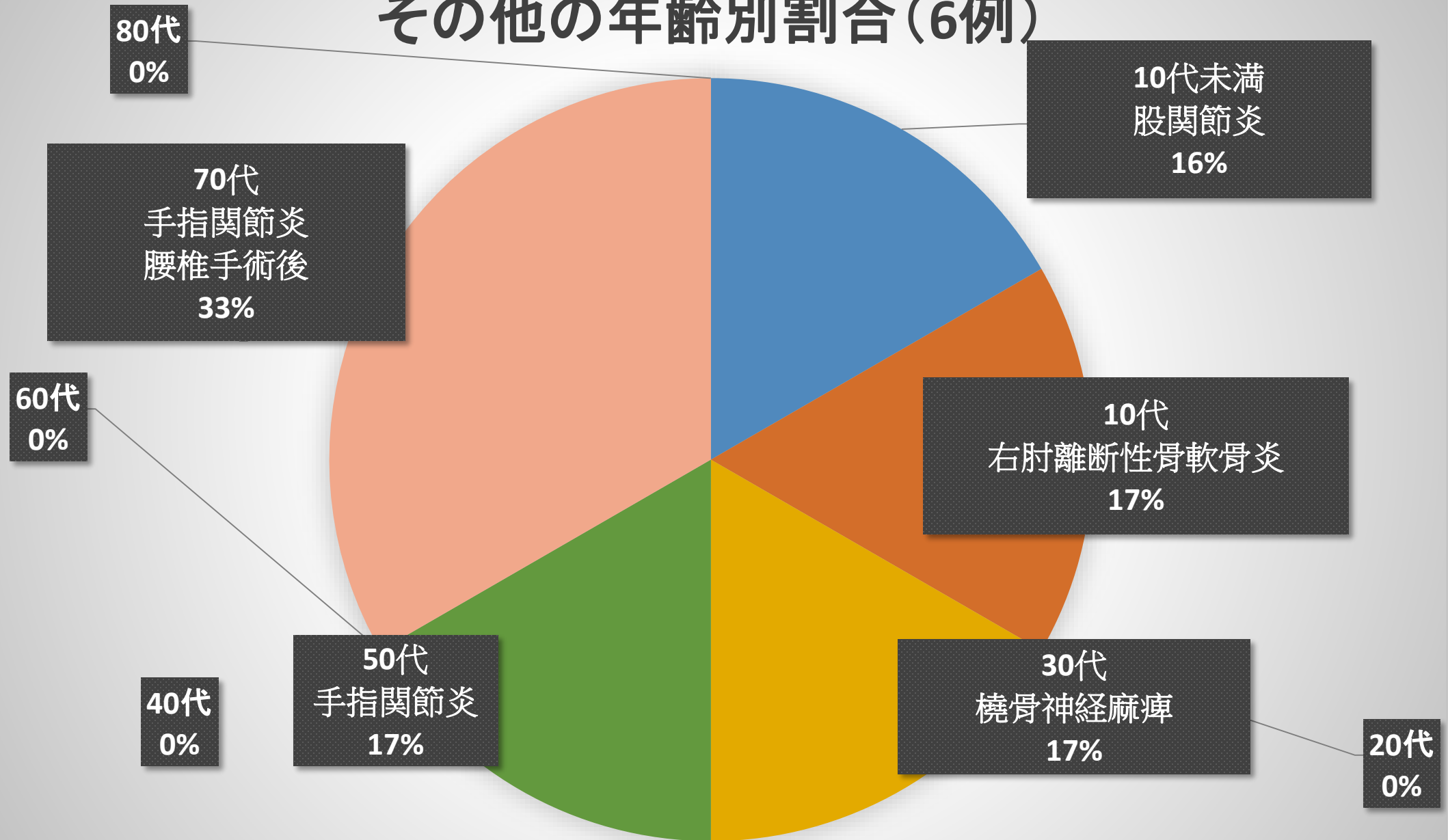
打撲の年齢別割合(17例)



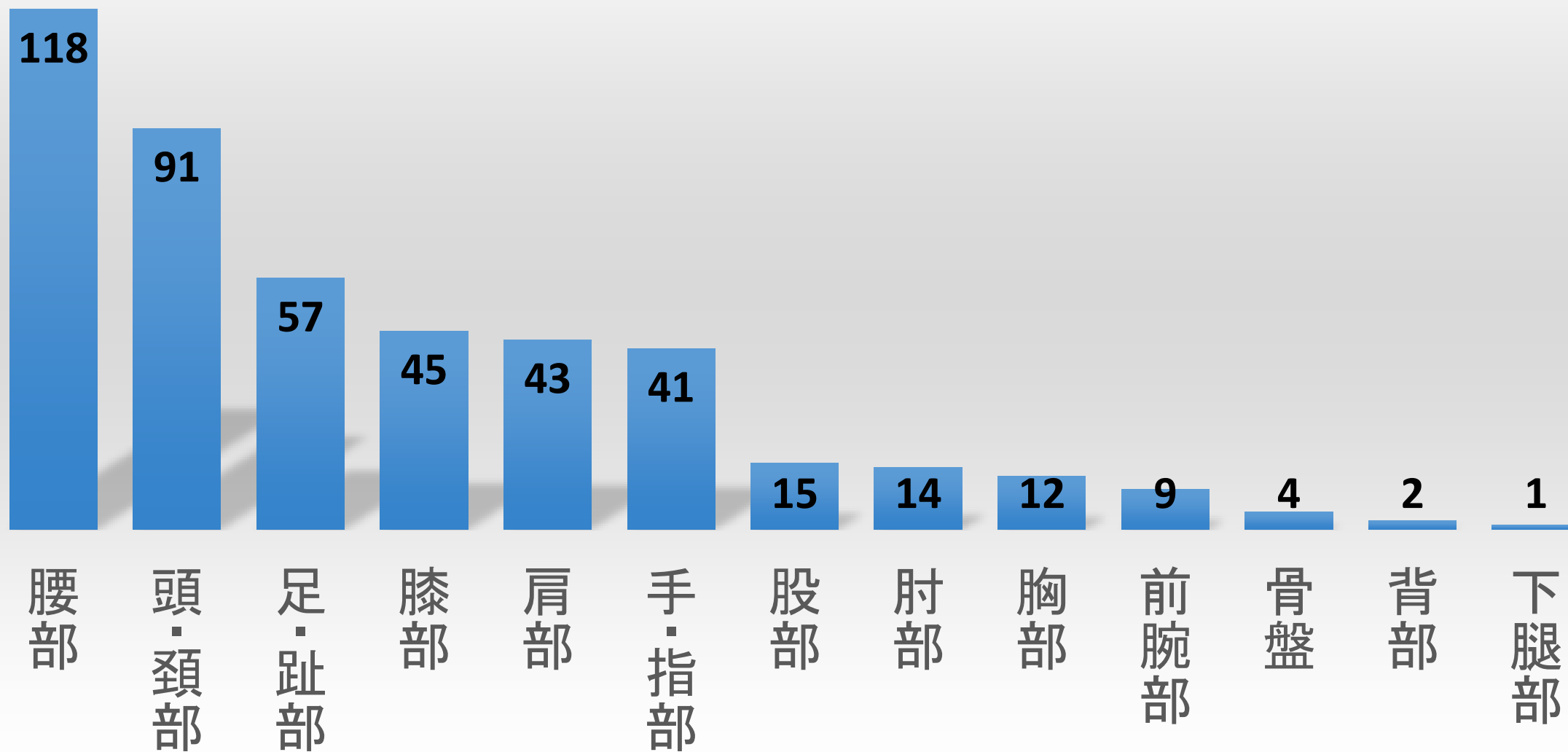
挫傷の年齢別割合(58例)



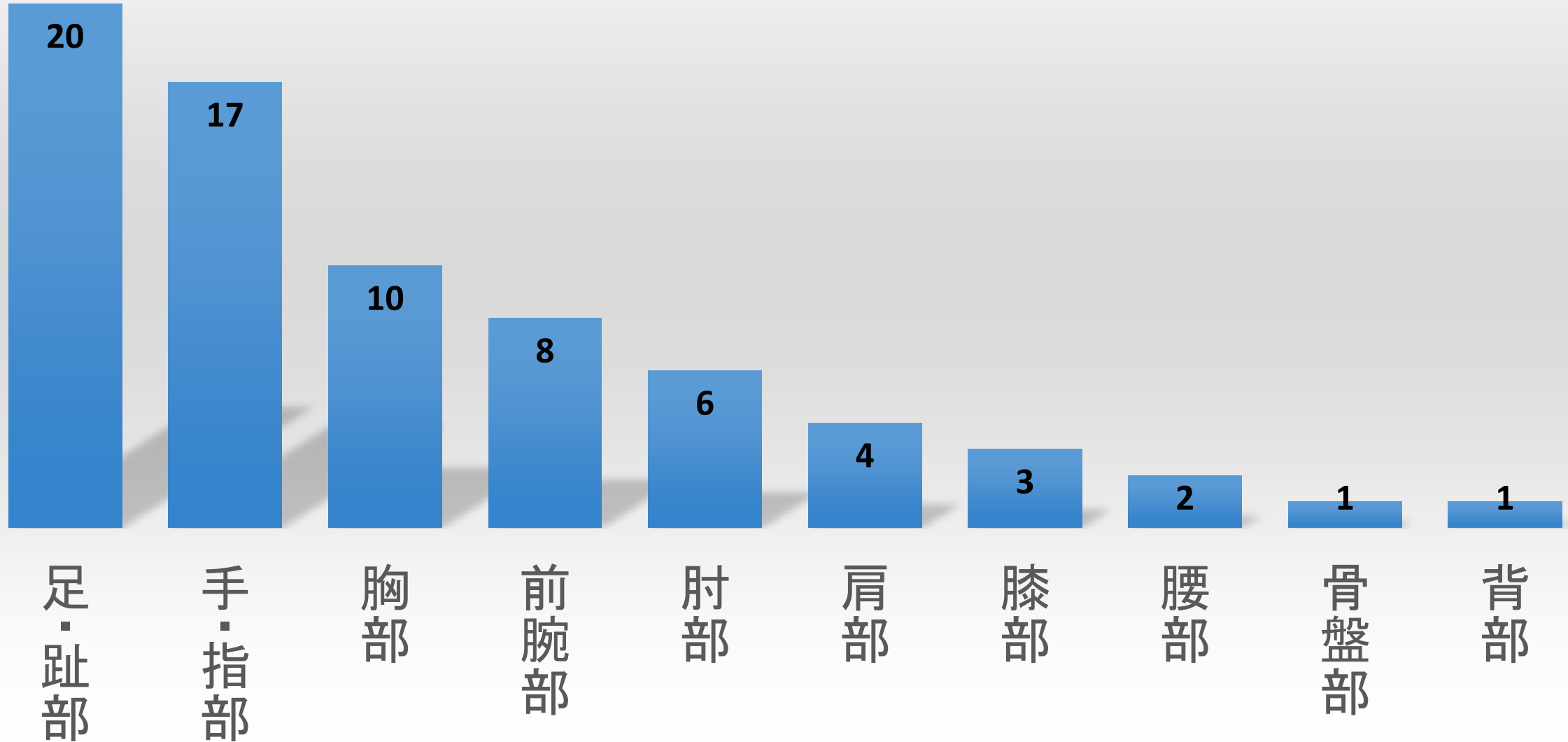
その他の年齢別割合(6例)



負傷部位 (452例)

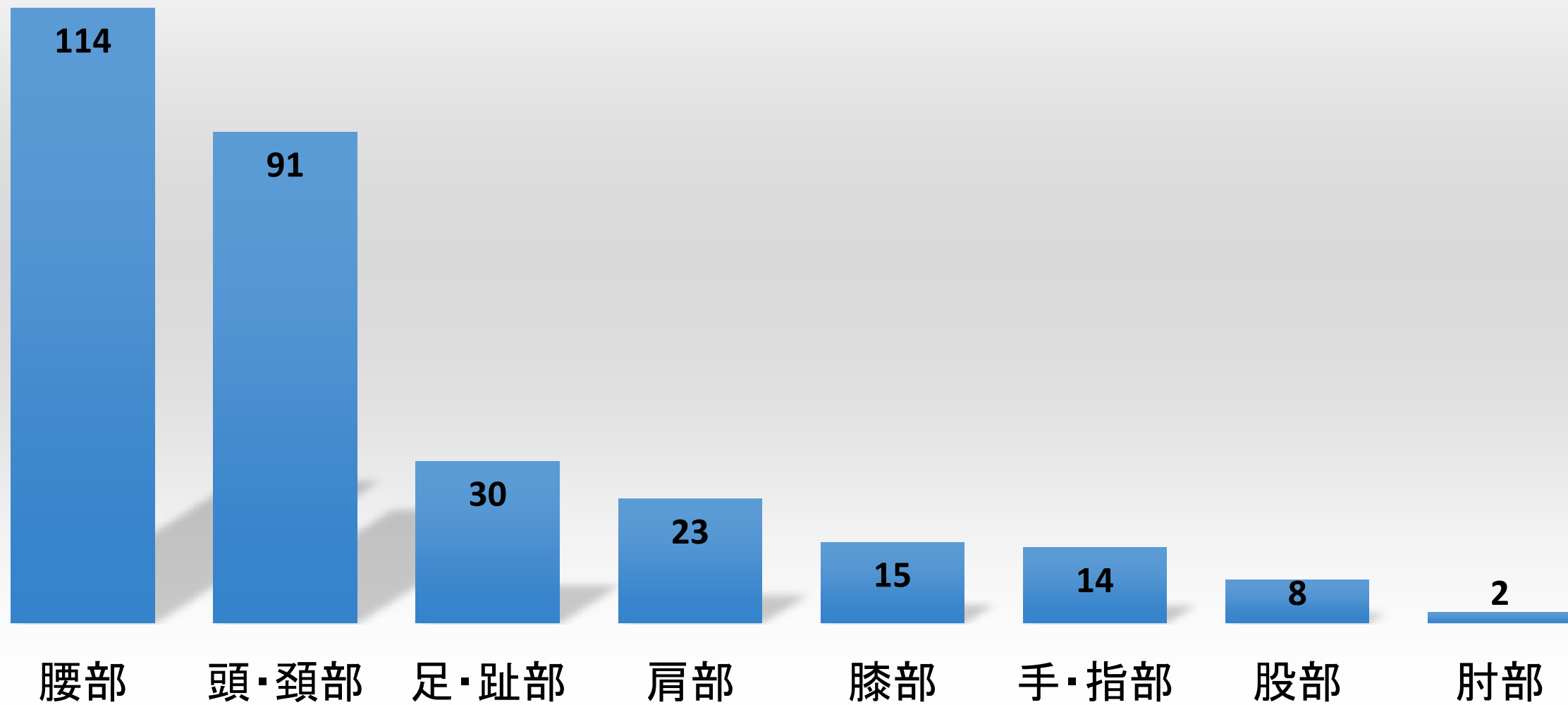


骨折の部位(72例)

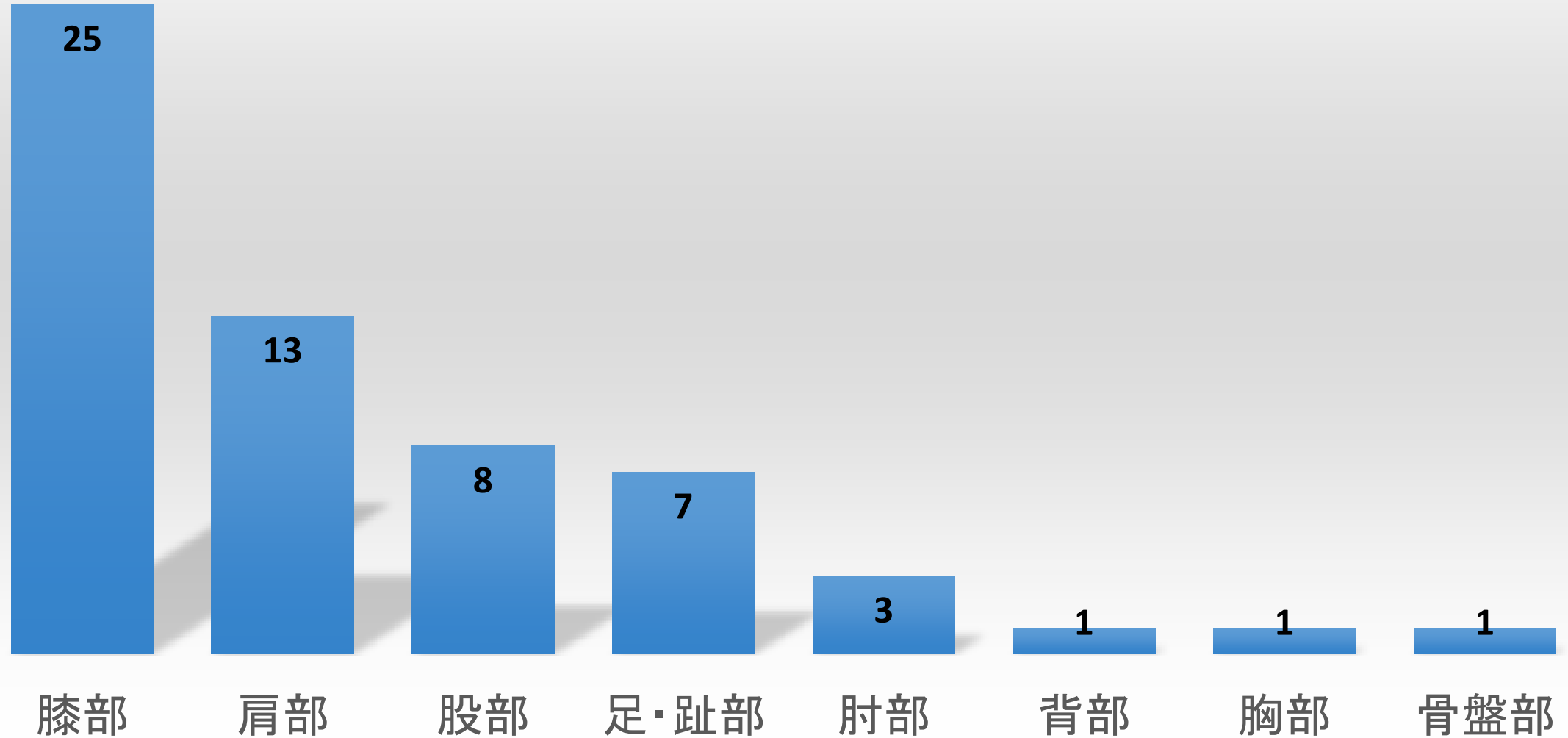


脱臼は肩関節部の1例のみ

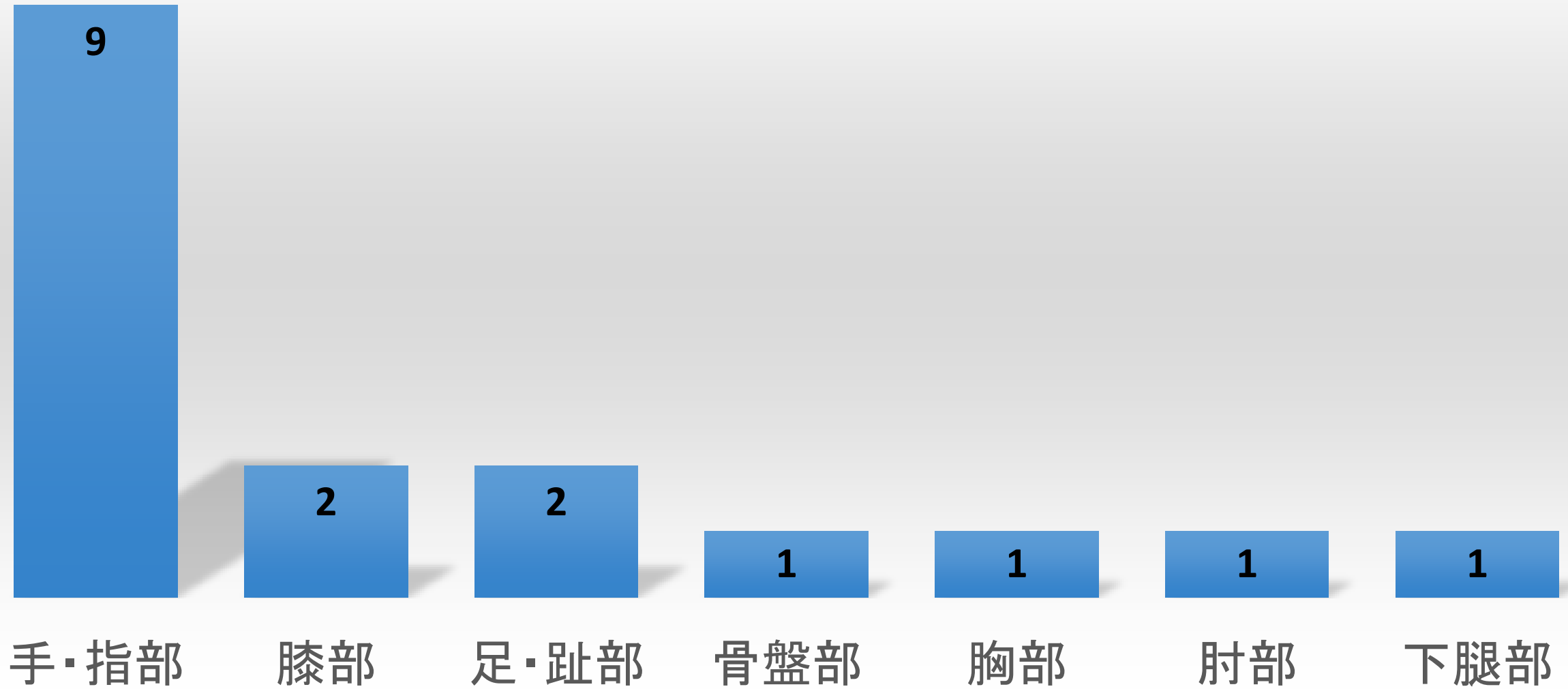
捻挫の部位(297例)



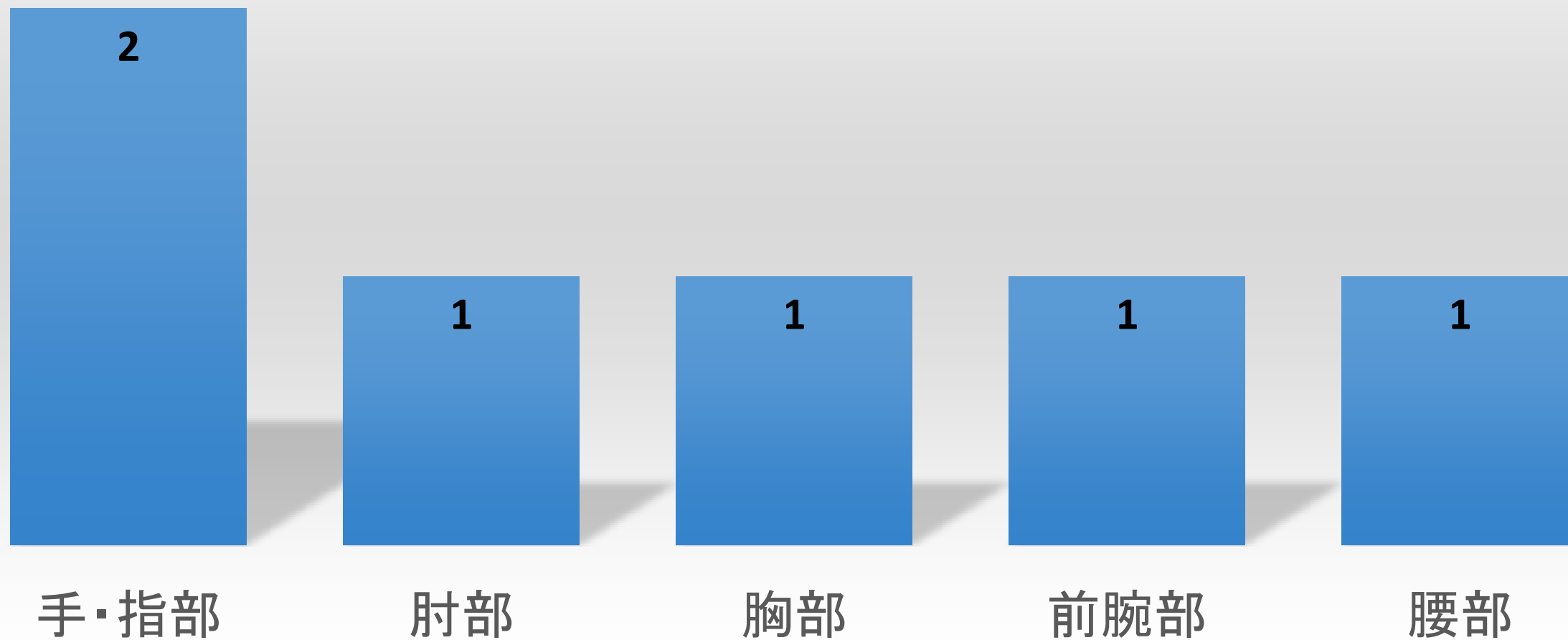
挫傷の部位(59例)



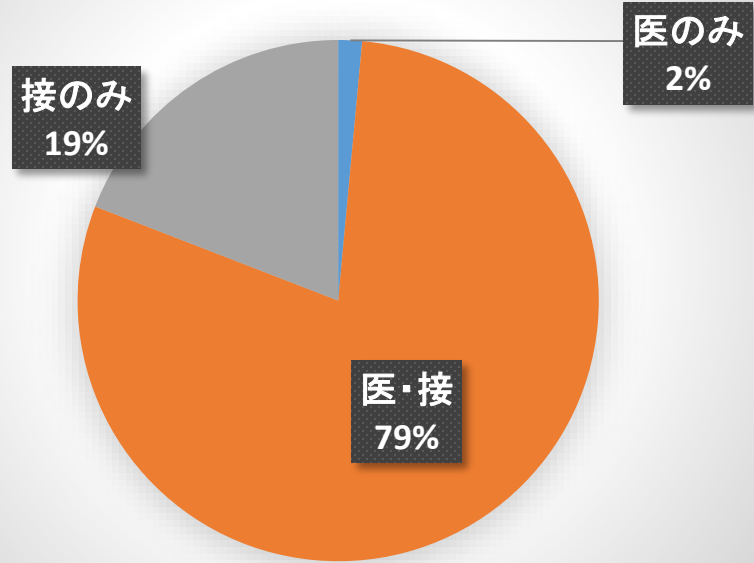
打撲の部位（17例）



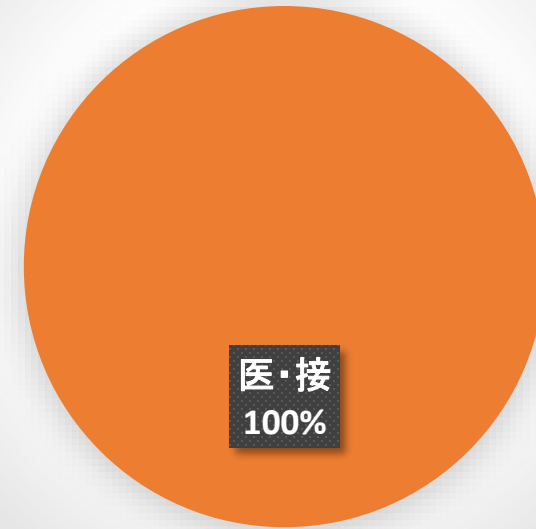
その他の部位(6例)



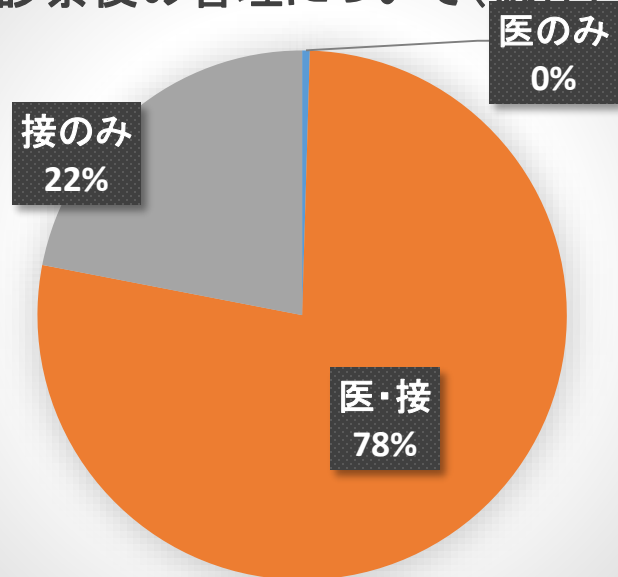
診察後の管理について(骨折)



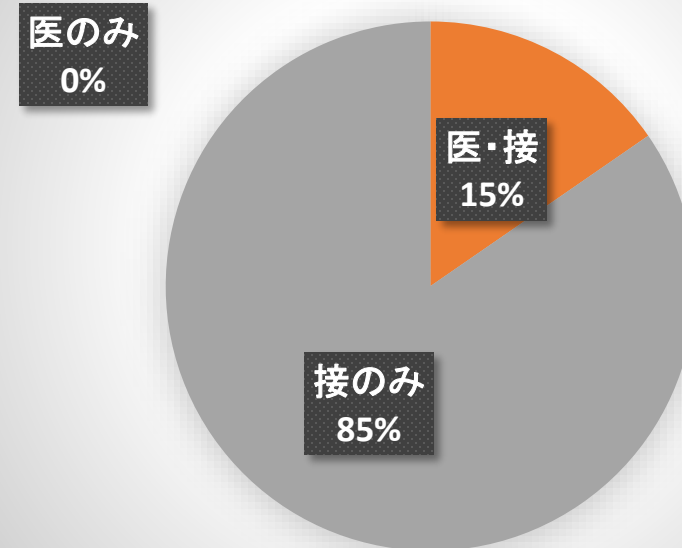
診察後の管理について(脱臼)



診察後の管理について(捻挫)

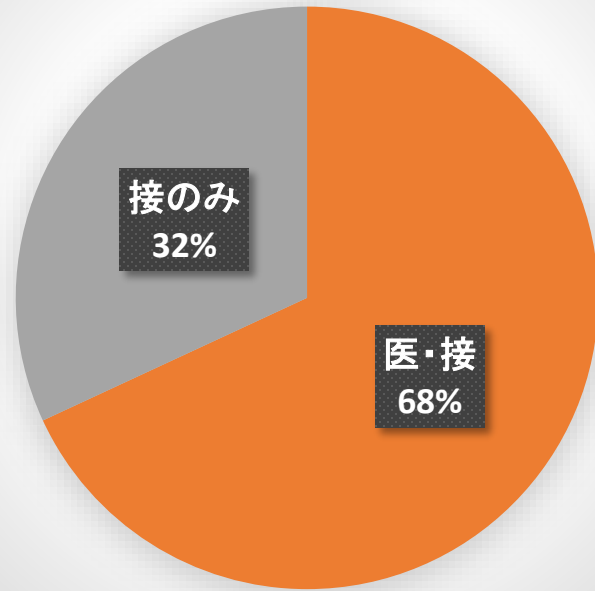


診察後の管理について(打撲)



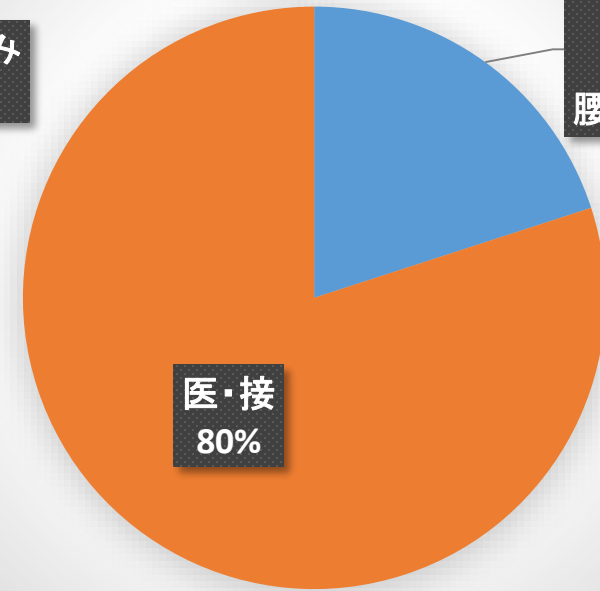
診察後の管理について(挫傷)

医のみ
0%



診察後の管理について(その他)

接のみ
0%

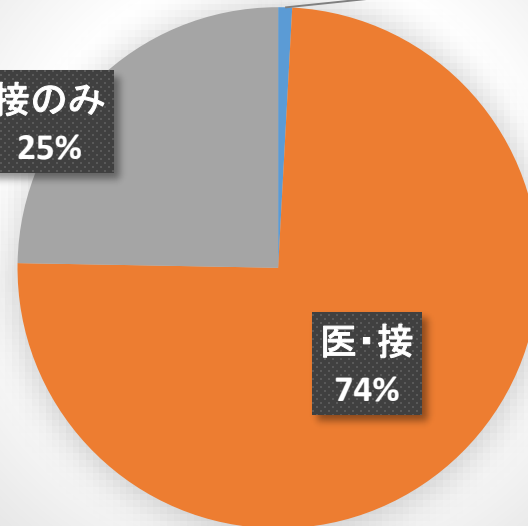


医のみ
20%
腰椎手術後

診察後の管理について(全体)

医のみ
1%

接のみ
25%



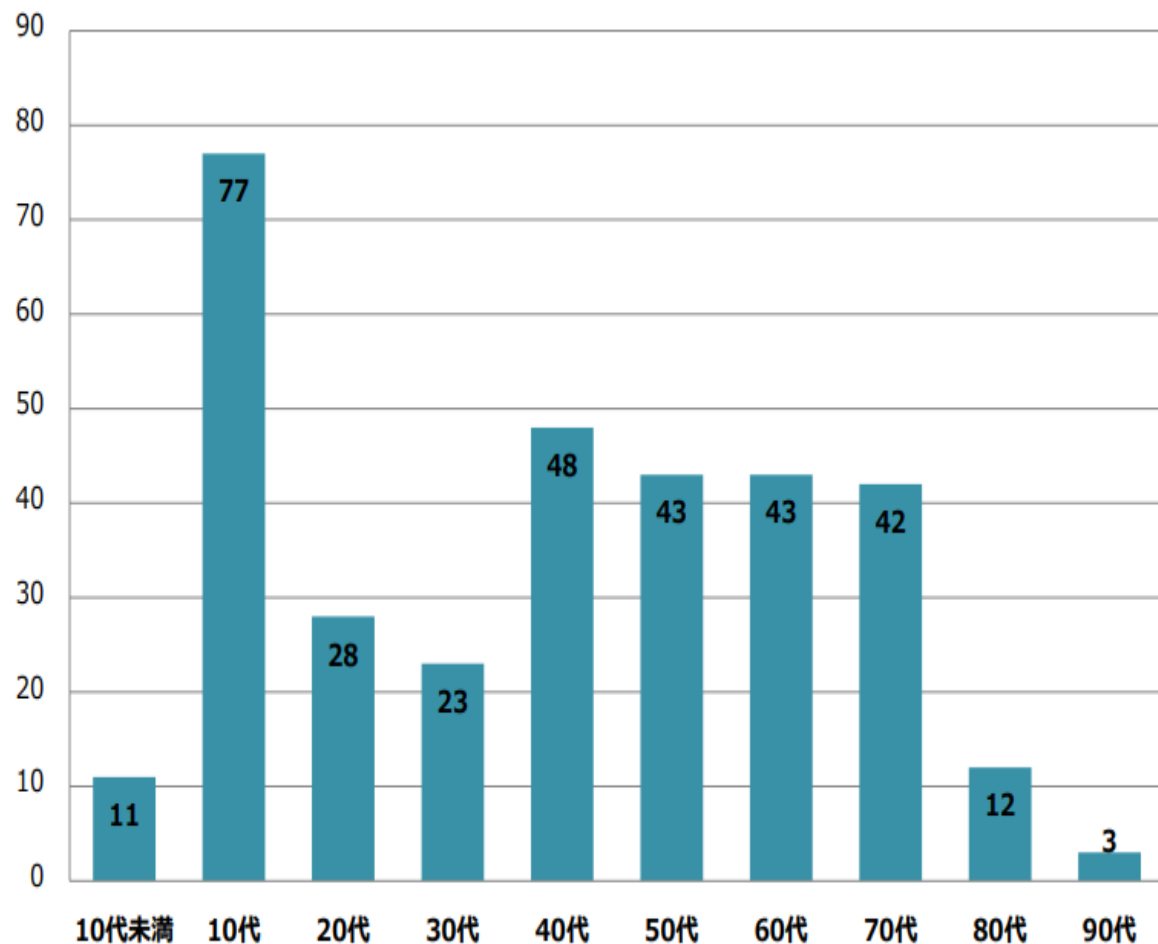
医・接
74%

平成29年度との比較

年代別 診察依頼者数

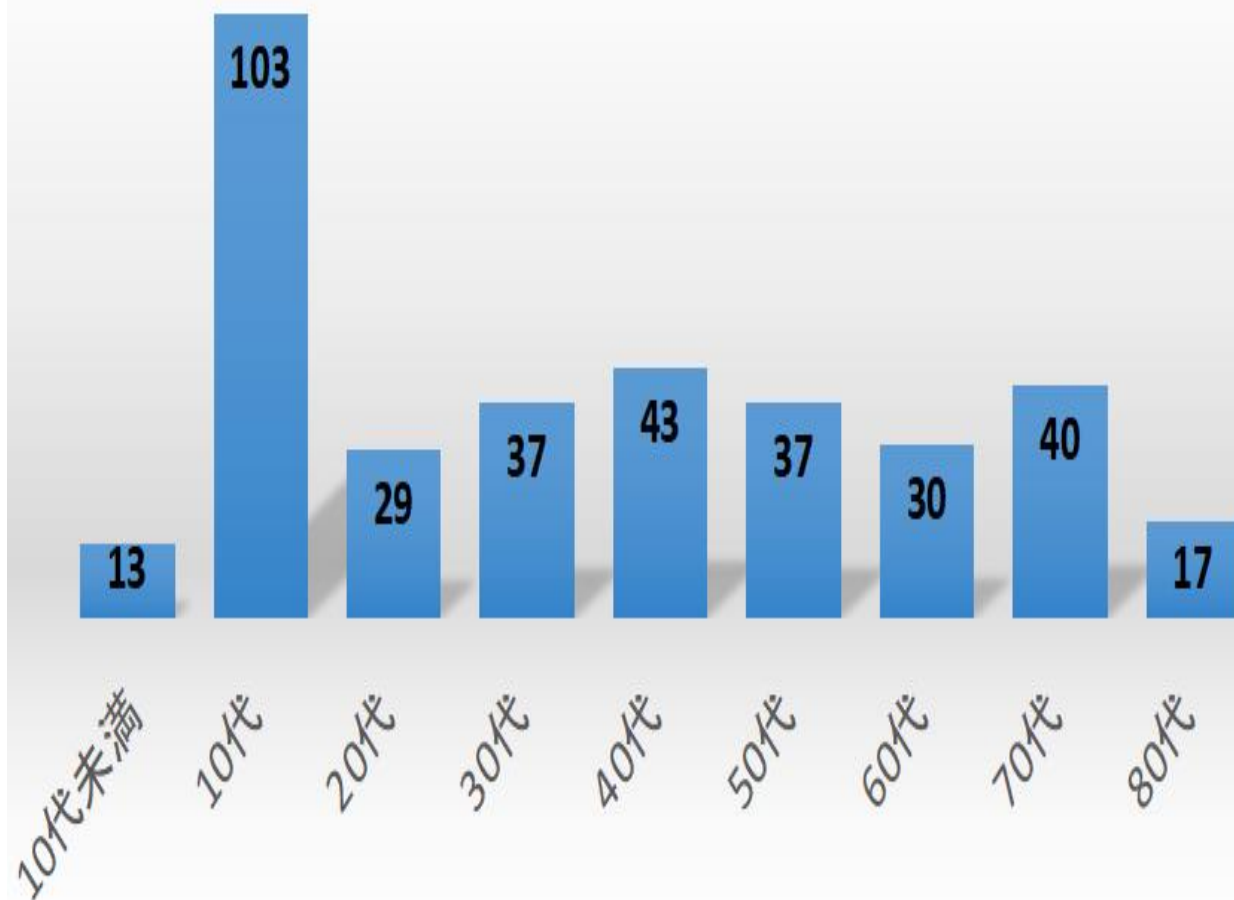
平成29年度

(330名)



年齢別 診察依頼者数 (349名)

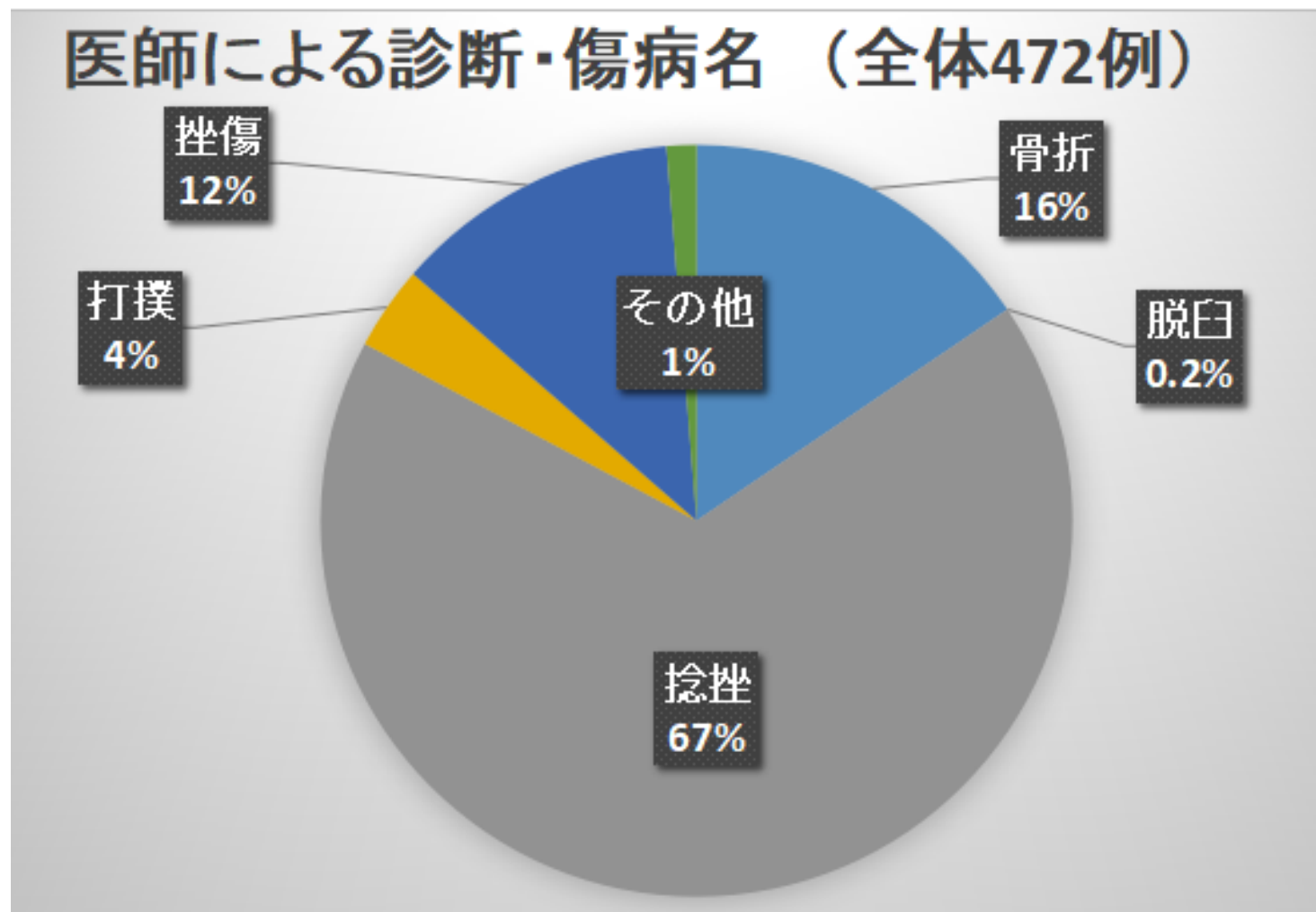
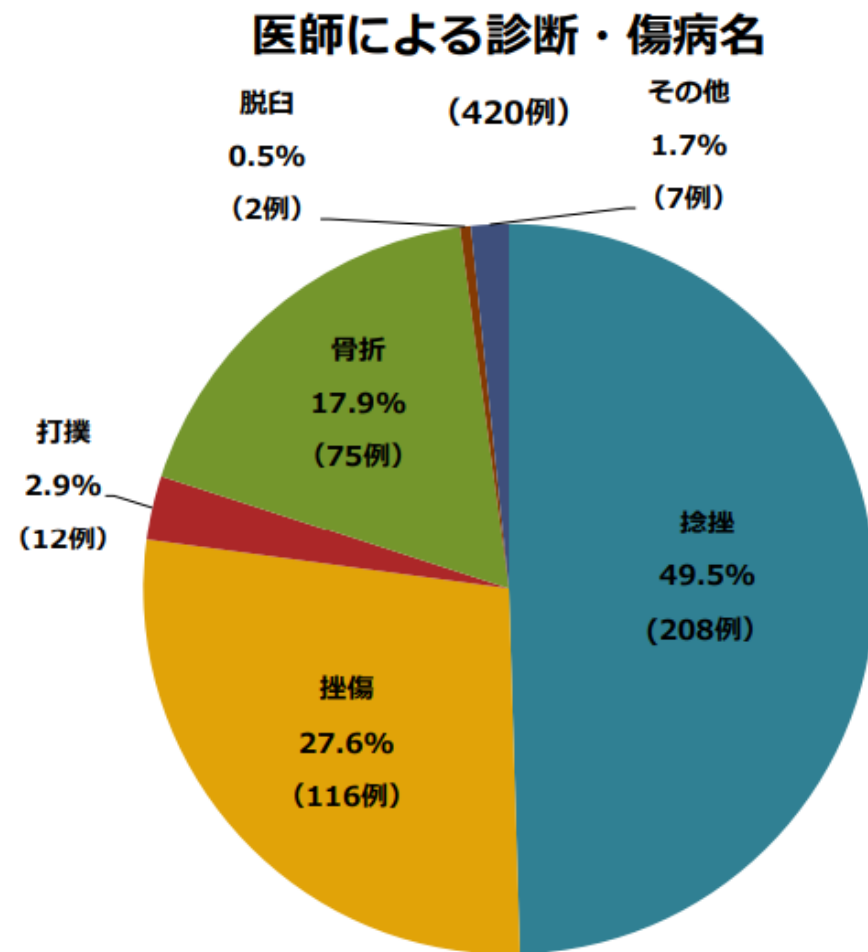
平成30年度



平成29年度との比較

平成29年度

平成30年度



平成29年度との比較 診察後の柔道整復師の管理の割合 (医師との管理も含む。)

平成29年度

98.3%

平成30年度

99.0%

データから見た傾向

1) 男女比

全体では男女ほぼ同じも、幼少期では男性が多く、
高齢期では女性が多い。
(年齢が高くなるにつれ女性の比率が高くなる。)

2) 負傷の原因

転倒も含めると日常生活のけがが最も多く、次いで交通事故
となっている。その他はスポーツによるけがとなっている。
原因の種類は10代が一番多く、
年齢が上がるにつれ種類が減少する。

データから見た傾向

3) 当連携室を通して医師に診察依頼した診断は、
どの年齢層も捻挫が最も多かった。

次いで多い骨折は、10代未満と10代で多く、
10代後半を除く青壮年期で一度減少するも、
70代～80代で多くなる傾向。

4) 負傷部位

腰部、頭・頸部が多く、ついで四肢の負傷となる傾向。

データから見た傾向

5) 当連携室を通した診察後の管理については、
全体の負傷の円グラフでは、
医師のみで管理をしたものは1%のみである。

どの負傷名においても大半が医師と柔道整復師、
もしくは柔道整復師のみで継続している。